

高岡市埋蔵文化財調査概報第85冊

富山県高岡市
市内遺跡調査概報34

— 令和5年度 赤祖父羽佐間遺跡の発掘調査報告他 —

2025年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第85冊

富山県高岡市
市内遺跡調査概報34

— 令和5年度 赤祖父羽佐間遺跡の発掘調査報告他 —

2025年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市域においては、現在341箇所の埋蔵文化財包蔵地が周知されています。本書はこれらの埋蔵文化財包蔵地で行った発掘調査にかかる事実関係を取りまとめ、発掘地点の位置図や代表的な遺構・遺物の実測図等の調査成果や郷土の歴史の探求や学術研究を掲載し、広く関係の皆様にご利用いただくことを目的としています。

このたび報告するのは、個人住宅等の建設に伴い令和5年度に実施した試掘調査15遺跡28地区と範囲確認調査の概要です。

試掘調査では、赤祖父羽佐間遺跡にて沖積低地部に広がる弥生時代から中世にかけての集落を検出しました。

範囲確認調査では、伏木台地に立地する御亭角廃寺跡を対象とし、歴史地理的な調査を行うため、伏木台地一帯の字境図を作成しました。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

令和7年3月

高岡市教育委員会
教育長 近藤 智久

例 言

- 1 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
- 2 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。
- 3 現地調査は令和5年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は令和6年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
- 4 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は15遺跡28箇所である。
- 5 調査形態は試掘調査、範囲確認調査である。
- 6 調査関係者は以下のとおりである。

課 長	長 井 剛 志 (令和6年度～)
	池 守 凡 子 (～令和5年度)
係 長	佐 伯 貴 之
主 査	杉 山 大 晋
主 任	田 上 和 彦
非常勤職員	塚 田 一 成

- 7 屋外調査は令和5年度に杉山・田上・塚田が担当し、報告書の編集は整理員の協力を得て、杉山・田上・塚田が担当した。
- 8 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。(五十音順)

【現地調査】

葛城英龍 草開博義 小泉憲和 小板達朗 社内悦夫 山中輝明 吉崎かおり

【報告書編集作業】

石浦優子 紅井万里乃 山口淳子

- 9 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。
 - 10 現地調査や報告書の作成は、以下の各氏・機関から指導・協力を得た。(五十音順 敬称略)
- 岡本淳一郎

凡 例

- 1 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海拔高である。
- 2 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。
S A : 柵址 S B : 掘立柱建物 S D : 溝状遺構 S E : 井戸址 S K : 土坑
S X : 凹地及び性格不明遺構
- 3 本書においては、遺物実測図の縮尺のうち、特に記載のないものは土器・陶磁器類は1/3、瓦は1/6で統一した。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 試掘調査	5
1 東木津遺跡（Y S B地区）	11 波岡西遺跡（前田地区）
2 越中国府関連遺跡（西地区・山森地区）	12 高岡問屋センター遺跡（松村地区）
3 石名田木舟遺跡（沖村地区）	13 波岡南遺跡（松井地区）
4 下老子笹川遺跡（梶沢地区）	14 中曽根館遺跡（石灰地区）
5 井口本江遺跡（K's地区）	15 中曽根西遺跡（宮腰地区）
6 越中国府関連遺跡（東亞合成地区）	16 東木津遺跡（上野地区・多田地区）
7 越中国府関連遺跡（太田地区）	17 中木津遺跡（A S S O C I E地区・堀井地区・ 中村地区）
8 本領地崎遺跡（土倉地区）	18 中木津遺跡（フォレストリーフ地区）
9 瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区）	19 井口本江遺跡（大塚地区）
10 赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・ 宮下地区）	20 中保B遺跡（佐久間地区・岡本地区）
第3章 範囲確認調査	24

挿 図 目 次

第1図	調査位置図	第28図	中木津遺跡（フォレストリーフ地区） 調査区位置図
第2図	東木津遺跡（Y S B地区）調査区位置図	第29図	井口本江遺跡（大塚地区）調査区位置図
第3図	越中国府関連遺跡（西地区・山森地区） 調査区位置図	第30図	中保B遺跡（佐久間地区・岡本地区） 調査区位置図
第4図	石名田木舟遺跡（沖村地区）調査区位置図	第31図	昭和24年（1949）伏木地形図
第5図	下老子笹川遺跡（梶沢地区）調査区位置図	第32図	伏木地域地形図
第6図	井口本江遺跡（K's地区）調査区位置図	第33図	周辺の遺跡位置図（1/15,000）
第7図	越中国府関連遺跡（東亞合成地区） 調査区位置図	第34図	伏木地区字別地図（『越中伏木地理志稿』の 附録より）
第8図	越中国府関連遺跡（太田地区）調査区位置図	第35図	伏木地区字境界図（1/15,000）
第9図	本領地崎遺跡（土倉地区）調査区位置図		
第10図	瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区） 調査区位置図		
第11図	瑞龍寺遺跡（穴井地区）遺物実測図		
第12図	瑞龍寺遺跡（前花地区）遺物実測図		
第13図	明治31年（1898）頃の瑞龍寺遺跡範囲復元図		
第14図	瑞龍寺配置古図（『瑞龍閣記』付図 高岡市立図書館蔵）		
第15図	瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区） 遺構全体図		
第16図	赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・ 宮下地区）調査区位置図		
第17図	赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・ 宮下地区）遺構全体図		
第18図	赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区）遺物実測図		
第19図	赤祖父羽佐間遺跡（中井地区）遺物実測図		
第20図	波岡西遺跡（前田地区）調査区位置図		
第21図	高岡問屋センター遺跡（松村地区） 調査区位置図		
第22図	波岡南遺跡（松井地区）調査区位置図		
第23図	波岡南遺跡（松井地区）トレンチ図		
第24図	中曽根館遺跡（石灰地区）調査区位置図		
第25図	中曽根西遺跡（宮腰地区）調査区位置図		
第26図	東木津遺跡（上野地区・多田地区） 調査区位置図		
第27図	中木津遺跡（A S S O C I E地区・ 堀井地区・中村地区）調査区位置図		

表 目 次

第 1 表 令和 5 年度の遺跡調査一覧

図 版 目 次

図版01 遺構写真 東木津遺跡・越中国府関連遺跡・石名田木舟遺跡

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 東木津遺跡 (Y S B 地区) | 第 1 トレンチ全景 (西) |
| 2 越中国府関連遺跡 (西地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |
| 3 石名田木舟遺跡 (沖村地区) | 第 1 トレンチ全景 (西) |

図版02 遺構写真 越中国府関連遺跡・下老子笹川遺跡・井口本江遺跡

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 越中国府関連遺跡 (山森地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |
| 2 下老子笹川遺跡 (梶沢地区) | 第 1 トレンチ全景 (北) |
| 3 井口本江遺跡 (K's 地区) | 第 3 トレンチ全景 (西) |

図版03 遺構写真 井口本江遺跡・越中国府関連遺跡

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 井口本江遺跡 (K's 地区) | 第 4 トレンチ全景 (西) |
| 2 越中国府関連遺跡 (東亞合成地区) | 第 1 トレンチ全景 (西) |
| 3 越中国府関連遺跡 (太田地区) | 第 1 トレンチ全景 (東) |

図版04 遺構写真 本領地崎遺跡・瑞龍寺遺跡

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 本領地崎遺跡 (土倉地区) | 第 1 トレンチ全景 (北) |
| 2 瑞龍寺遺跡 (穴井地区) | 第 1 トレンチ全景 (西) |
| 3 瑞龍寺遺跡 (前花地区) | 第 1 トレンチ全景 (東) |

図版05 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |
| 2 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区) | 第 2 トレンチ全景 (南) |
| 3 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区) | 第 3 トレンチ全景 (北) |

図版06 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区) | 第 4 トレンチ全景 (南) |
| 2 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区) | 第 9 トレンチ全景 (西) |
| 3 赤祖父羽佐間遺跡 (中井地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |

図版07 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 赤祖父羽佐間遺跡 (中井地区) | 第 4 トレンチ全景 (南) |
| 2 赤祖父羽佐間遺跡 (宮下地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |
| 3 赤祖父羽佐間遺跡 (宮下地区) | 第 3 トレンチ全景 (南) |

図版08 遺構写真 波岡西遺跡・高岡問屋センター遺跡・波岡南遺跡

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 波岡西遺跡 (前田地区) | 第 1 トレンチ全景 (西) |
| 2 高岡問屋センター遺跡 (松村地区) | 第 2 トレンチ全景 (北) |
| 3 波岡南遺跡 (松井地区) | 第 1 トレンチ全景 (南) |

図版09 遺構写真 波岡南遺跡

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 波岡南遺跡 (松井地区) | 第2トレンチ全景 (西) |
| 2 波岡南遺跡 (松井地区) | 第3-2トレンチ全景 (北) |
| 3 波岡南遺跡 (松井地区) | 第4トレンチ全景 (北) |

図版10 遺構写真 波岡南遺跡

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 波岡南遺跡 (松井地区) | 第5トレンチ全景 (北) |
| 2 波岡南遺跡 (松井地区) | 第6トレンチ全景 (北) |
| 3 波岡南遺跡 (松井地区) | 第7トレンチ全景 (南) |

図版11 遺構写真 波岡南遺跡

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 波岡南遺跡 (松井地区) | 第8トレンチ全景 (北) |
| 2 波岡南遺跡 (松井地区) | 第9トレンチ全景 (南) |
| 3 波岡南遺跡 (松井地区) | 第11トレンチ全景 (北) |

図版12 遺構写真 波岡南遺跡

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 波岡南遺跡 (松井地区) | 第12トレンチ全景 (西) |
| 2 波岡南遺跡 (松井地区) | 第13トレンチ全景 (西) |
| 3 波岡南遺跡 (松井地区) | 第14トレンチ全景 (南) |

図版13 遺構写真 中曽根館遺跡・中曽根西遺跡・東木津遺跡

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 中曽根館遺跡 (石灰地区) | 第1トレンチ全景 (南) |
| 2 中曽根西遺跡 (宮腰地区) | 第1トレンチ全景 (北) |
| 3 東木津遺跡 (上野地区) | 第1トレンチ全景 (南) |

図版14 遺構写真 東木津遺跡・中木津遺跡

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 東木津遺跡 (多田地区) | 第2トレンチ全景 (北) |
| 2 中木津遺跡 (ASSOCIE地区) | 第1トレンチ全景 (西) |
| 3 中木津遺跡 (堀井地区) | 第3トレンチ全景 (南西) |

図版15 遺構写真 中木津遺跡

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 中木津遺跡 (中村地区) | トレンチ全景 (北) |
| 2 中木津遺跡 (フォレストリーフ地区) | 第2トレンチ全景 (北) |
| 3 中木津遺跡 (フォレストリーフ地区) | 第4トレンチ全景 (南) |

図版16 遺構写真 井口本江遺跡・中保B遺跡

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 井口本江遺跡 (大塚地区) | 第2トレンチ全景 (西) |
| 2 中保B遺跡 (佐久間地区) | 第1トレンチ全景 (東) |
| 3 中保B遺跡 (岡本地区) | 第1トレンチ全景 (東) |

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は、富山県の北西部に位置し、東西約24.5km、南北約19.2kmに渡り総面積は、209.58km² (20.958ha) である。北東は日本海に面し、東側には庄川と小矢部川によって形成された平野部が広がり、西側は二上山及びこれに連なる西山丘陵からなる山間部となっている。日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3,000m級の立山連峰の大パノラマを見ることができ、平野部には良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、深緑と清らかな水に包まれ、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれている。

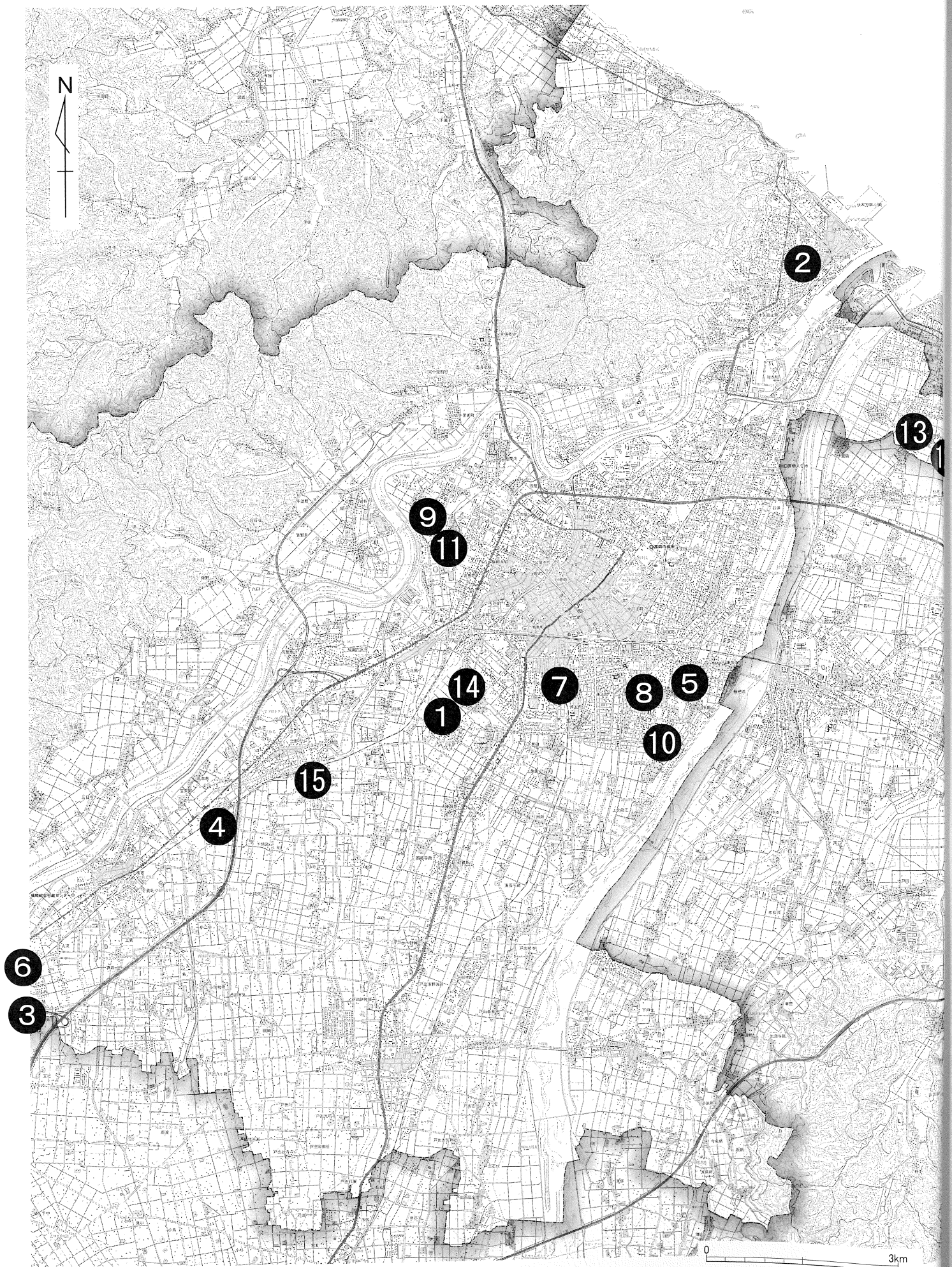
現在、高岡市では341箇所の遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部、丘陵部、平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、谷あいの平坦地などで縄文時代の遺跡が確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、西山丘陵の山麓線沿いに古代の北陸道があったとされる。

平野部には、伏木台地、佐野台地、高岡台地の3つの台地上に多くの遺跡が所在している。中でも、伏木台地と高岡台地は、高岡市の歴史の中でも大きな舞台となっている。小矢部川河口に位置する伏木台地は、奈良時代に国府が整備され、越中の政治・文化の中心地となり、天平18年(746)には、歌人としても有名な大伴家持が国守として赴任している。このため、伏木台地の大部分を越中国府関連遺跡として位置付けている。また高岡台地は、慶長14年(1609)、加賀前田家2代当主前田利長によって、高岡城と城下町が築造され、現在の高岡のまちの基盤となった。高岡台地上には、前田家関連の遺跡として、高岡城跡、瑞龍寺遺跡、前田利長墓所が所在している。

また、弥生時代を主体とする集落遺跡として県内有数の規模を誇る石塚遺跡や下老子笹川遺跡、古代における官衙的な遺跡とされる東木津遺跡や中保B遺跡、中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が所在している。

今回の報告で主となる赤祖父羽佐間遺跡は、沖積平野の低地部に位置する。今回は、遺跡中央と南側の箇所の発掘調査を行い、弥生時代から中世の土坑や溝を検出し、集落の広がりを把握する良好な資料が得られた。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ① 東木津遺跡 (Y S B 地区、上野地区、多田地区) | ⑨ 波岡西遺跡 (前田地区) |
| ② 越中国府関連遺跡 (西地区、山森地区、東亞合成地区、太田地区) | ⑩ 高岡問屋センター遺跡 (松村地区) |
| ③ 石名田木舟遺跡 (沖村地区) | ⑪ 波岡南遺跡 (松井地区) |
| ④ 下老子笹川遺跡 (梶沢地区) | ⑫ 中曽根館遺跡 (石灰地区) |
| ⑤ 井口本江遺跡 (K's地区、大塚地区) | ⑬ 中曽根西遺跡 (宮腰地区) |
| ⑥ 本領地崎遺跡 (土倉地区) | ⑭ 中木津遺跡 (A S S O C I E 地区、堀井地区、中村地区、フォレストリーフ地区) |
| ⑦ 瑞龍寺遺跡 (穴井地区、前花地区) | ⑮ 中保B遺跡 (佐久間地区、岡本地区) |
| ⑧ 赤祖父羽佐間遺跡 (県土木地区、中井地区、宮下地区) | |



第1図 調査位置図

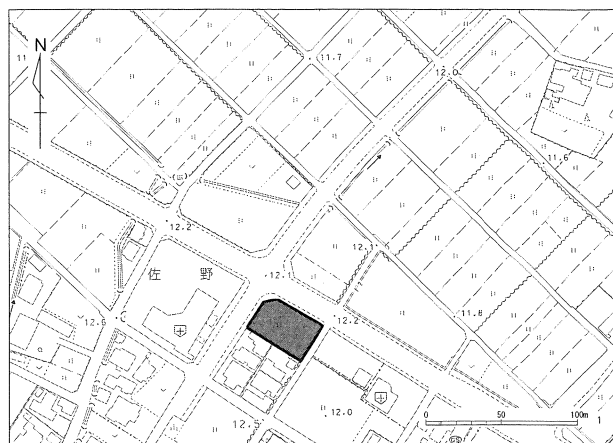
試掘調査

第1表 令和5年度の遺跡調査一覧

No	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	東木津遺跡	ひがしぎづいせき	木津	弥生～近世	集落・官衙	水田・宅地
2	越中国府関連遺跡	えつちゅうこくふかんれんいせき	伏木	古代・中世	官衙	宅地
3	石名田木舟遺跡	いしなだきふねいせき	木舟	古代・中世・近世	集落	宅地・田
4	下老子笹川遺跡	しもおいごさがわいせき	下老子笹川	縄文晩期～近世	集落	水田
5	井口本江遺跡	いぐちほんごういせき	井口本江	奈良～平安	集落	水田・宅地
6	本領地崎遺跡	ほんりょうちざきいせき	本領	古代・中世・近世	散布地	宅地・田
7	瑞龍寺遺跡	ずいりゅうじいせき	関本町	近世	寺院	境内地
8	赤祖父羽佐間遺跡	あかそふはさまいせき	赤祖父	古墳～中世	集落	宅地
9	波岡西遺跡	はおかにしいせき	波岡	古墳～中世	散布地	水田
10	高岡問屋センター遺跡	たかおかとんやせんたーいせき	問屋町	縄文晩期・奈良～平安	散布地	宅地
11	波岡南遺跡	はおかみなみいせき	波岡	古代～中世	散布地	水田・畑
12	中曽根館遺跡	なかそねたちいせき	中曽根	弥生～中世	散布地	水田
13	中曽根西遺跡	なかそねにしいせき	中曽根	弥生～中世	集落	水田
14	中木津遺跡	なかきづいせき	木津	奈良～近世	散布地	水田
15	中保B遺跡	なかほびーいせき	中保	縄文晩期・弥生～中世	集落・官衙	水田・宅地

1 東木津遺跡（Y S B 地区）

所在地	高岡市佐野856番1、856番2、 856番3、857番1、858番1
調査期間	令和5年5月10～11日
対象面積	1,090㎡
試掘坑	2本
発掘面積	約71.6㎡
調査原因	その他建物（資材置場）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第2図 東木津遺跡（Y S B 地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の中央西に位置する。平成14年度に試掘調査を実施した田中医院地区と島宇地区の間にある。この周辺は、都市計画道路築造に伴う平成9・10年度の本発掘調査の結果から、古代から中世の遺物を伴う集落が近くまで広がる場所である。

調査は、対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30～40cm、標高10.5～10.7m付近で明黄褐色粘質シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

2 越中国府関連遺跡（西地区・山森地区）

（西地区）

所在地	高岡市伏木東一宮1144番
調査期間	令和5年5月17日
対象面積	362.88㎡
試掘坑	3本
発掘面積	約9.6㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし

（山森地区）

所在地	高岡市伏木東一宮1215番、1211番3
調査期間	令和5年6月1日
対象面積	314.92㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約24㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし

調査概要

西地区と山森地区は遺跡の中央の赤坂谷に位置する。北部台地と中部台地の間の赤坂谷と面する縁辺部の試掘調査では、遺構・遺物の検出例はなく、谷地形のため地山が深い位置にあり検出できない地点もある。

西地区は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約180cm、標高1.5m付近まで重機掘削したが、明確な地山は確認できなかった。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

本地点では、Ⅲ・Ⅳ層の遺物の流れ込みがないことや水辺の立地環境から、人為的な生活痕跡はないと考えられる。

山森地区は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約230cm、標高-0.2m付近まで重機掘削したが、明確な地山は確認できなかった。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

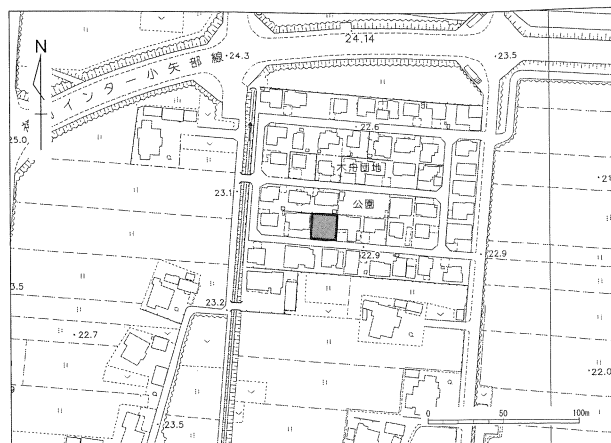
平成29年度の北村地区と令和5年度の西地区の試掘調査においても、地表面下約200cm、標高0.9～1.0m付近まで掘削したが、地山が検出できなかったのと同様、今年度も地山の検出ができないことが赤坂谷の谷底が相当深いと考えられる。



第3図 越中国府関連遺跡（西地区・山森地区）
調査区位置図

3 石名田木舟遺跡（沖村地区）

所在地	高岡市福岡町木舟131番19
調査期間	令和5年5月24日
対象面積	289㎡
試掘坑	3本
発掘面積	約15.3㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	古代須恵器、古代土師器



第4図 石名田木舟遺跡（沖村地区）調査区位置図

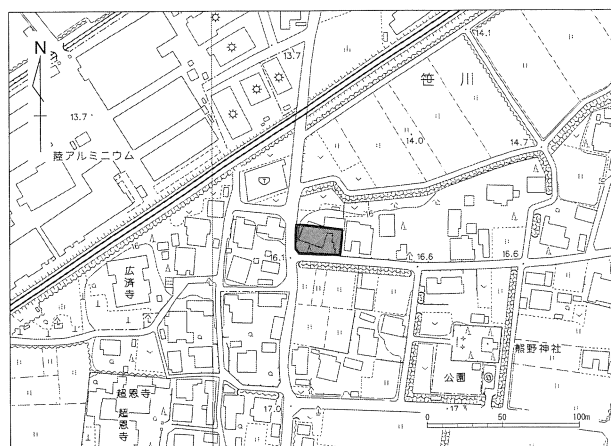
調査概要

本地点は遺跡の中央部、木舟城跡の北側に位置する。周辺では、古代の集落と祭祀関係遺物や、中世の木舟城跡の城下町関係の遺構・遺物が多数検出されている。今回の区画は、埋蔵文化財包蔵地周知前に造成された住宅団地内にあり、初の試掘調査となる。

調査は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約200cm、標高20.3m付近で青灰色砂質シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は流れ込みの遺物として古代須恵器、古代土師器が出土した。

4 下老子笹川遺跡（梶沢地区）

所在地	高岡市笹川59番1の一部
調査期間	令和5年6月29日
対象面積	約500㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約14.1㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第5図 下老子笹川遺跡（梶沢地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北端に位置する。本遺跡の北側では、平成15年度調査の大納地区で土坑や縄文土器・土師器が出土している以外は調査事例はなく、遺跡中央・南部で検出される弥生・古墳時代の集落の広がり確認していない。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約80～90cm、標高15.1m付近で褐色砂礫層が10cm程度の礫が多く混入する地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

5 井口本江遺跡（K's地区）

所在地	高岡市出来田地内
調査期間	令和5年7月5～7日、12～13日
対象面積	9,928.11㎡
試掘坑	8本
発掘面積	294㎡
調査原因	商業施設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第6図 井口本江遺跡（K's地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の中央部東端に位置する。県道能町庄川線の開通に伴い、周辺の民間開発に伴う発掘調査が進んでいる。微高地の北側は古代・中世の集落が、中央の標高が高い部分は弥生中期～中世の集落を確認している。南側の出来田南遺跡に隣り合う場所は、縄文土器を含む自然流路や古代～中世の集落が散発的に広がる状況を確認している。遺構の分布は、東に行くほど遺構密度が低く、土器を含まない自然流路が東西・南北共に存在している。本地点は遺跡中央東側の自然流路や中世の集落があることが想定される箇所である。

調査は、対象地に試掘坑を8箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30～80cm、標高8.1～8.6m付近で青灰色粘質シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

県道能町庄川線で検出された自然流路の延長も考慮に入れると、自然流路の方向や遺物の流れ込みも想定されたが、自然流路のみの検出にとどまり、結果的に遺構・遺物はなく、本地点には集落の広がらないことを確認した。

6 越中国府関連遺跡（東亞合成地区）

所在地	高岡市伏木古府2丁目97番
調査期間	令和5年7月19日
対象面積	約277.04㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約12㎡
調査原因	依頼（個人住宅）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第7図 越中国府関連遺跡（東亞合成地区）

調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の南側の古府谷に位置する。中部台地と南部台地の間の古府谷と面する縁辺部の試掘調査では、遺構・遺物の検出例はない。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約80cm、標高約3.2～3.4mで青灰色粘質シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

7 越中国府関連遺跡（太田地区）

所在地	高岡市伏木古府2丁目266番1
調査期間	令和5年7月26日
対象面積	353㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約18㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第8図 越中国府関連遺跡（太田地区）調査区位置図

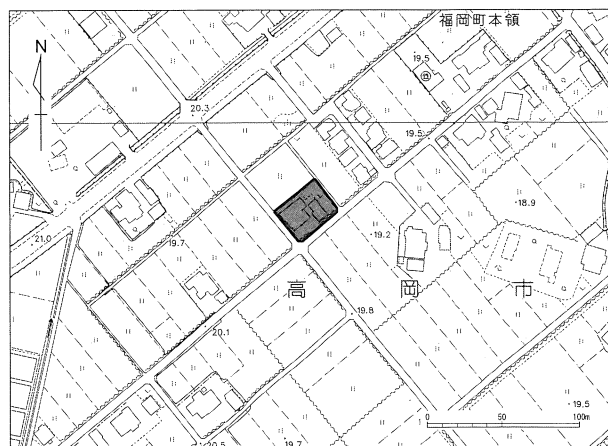
調査概要

本地点は遺跡の中央台地の勝興寺の西側に位置する。勝興寺西側の調査では、遺構・遺物が検出された試掘調査例はない。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20cm、標高13.2m付近で褐色粘質シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

8 本領地崎遺跡（土倉地区）

所在地	高岡市福岡町本領597番2、598番2
調査期間	令和5年8月9日
対象面積	671.06㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約15.7㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第9図 本領地崎遺跡（土倉地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北端に位置する。分布調査の結果では、8世紀代から16世紀代の遺物が近辺から表採されているが、周辺の試掘調査では遺構・遺物ともに検出事例はない。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約110cm、標高約18.1mで青灰色粘質（砂質）シルトの地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

第3層にはヨシ・アシ類と思われる植物遺体が多く含む湿地堆積層の特徴を確認し、遺物の流れ込みのないことを確認した。第5層の砂層は多量の水分を含むことから、庄川の伏流水を通す扇状地堆積層と考えられる。湿地堆積層が見つかったことから、本地点北側に本領地崎遺跡の遺跡範囲は広がらないと考えられる。

9 瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区）

	（穴井地区）	（前花地区）
所在地	高岡市上関町497番3	高岡市上関町36番2
調査期間	令和5年9月21～22日	令和5年11月20日
対象面積	136㎡	576.78㎡
試掘坑	1本	3本
発掘面積	19.8㎡	約20.56㎡
調査原因	依頼（個人住宅）	個人住宅
検出遺構	溝1条、落ち込み1箇所	なし
出土遺物	近世瓦、近世肥前陶磁・椀、越前・甕陶磁器類、近世土師器・灯明皿、近世越中瀬戸	古代須恵器、古代土師器

調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。周辺では、近世の瑞龍寺所用瓦を伴う遺構や、中世～近世の遺構・遺物が混在して検出され、本調査では近世瑞龍寺に関連する瓦が多量に出土する調査地点にも近い。

穴井地区は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約70～80cm、標高約9.2mで明灰褐色粘質シルト層の地山を確認した。遺構は溝1条と落ち込み1箇所を検出した。遺物は近世瓦、近世肥前陶磁・椀、越前・甕陶磁器類、近世土師器・灯明皿、近世越中瀬戸が出土した。

落ち込みの底部出土の瓦は、燻瓦（丸瓦、平瓦、軒平瓦）と釉薬瓦（平瓦）とコンクリートが混在していることから、検出面の直上まで現代の土の移動を伴う攪乱を受けていると考えられる。遺構出土の遺物についても、遺物の年代が中世～現代であることから、攪乱を受けている。そのため、第2層は遺物包含層でなく、攪乱遺物を含む盛土と判断した。

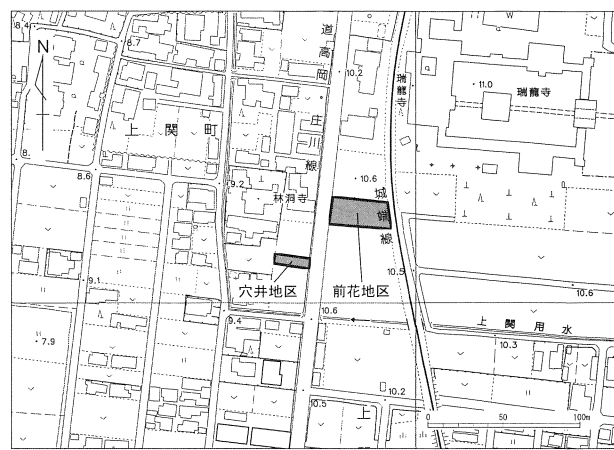
前花地区は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下60～70cm、標高約9.0～9.2mで明灰褐色粘質シルト層の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は古代須恵器、古代土師器が出土した。

第1トレンチ内では、大きく掘りこまれた落ち込みを確認し、第2・3トレンチでは地山を検出した。第1トレンチの落ち込みは明確な立ち上がりは確認できず、第2トレンチまでは広がりはないと考えられる。

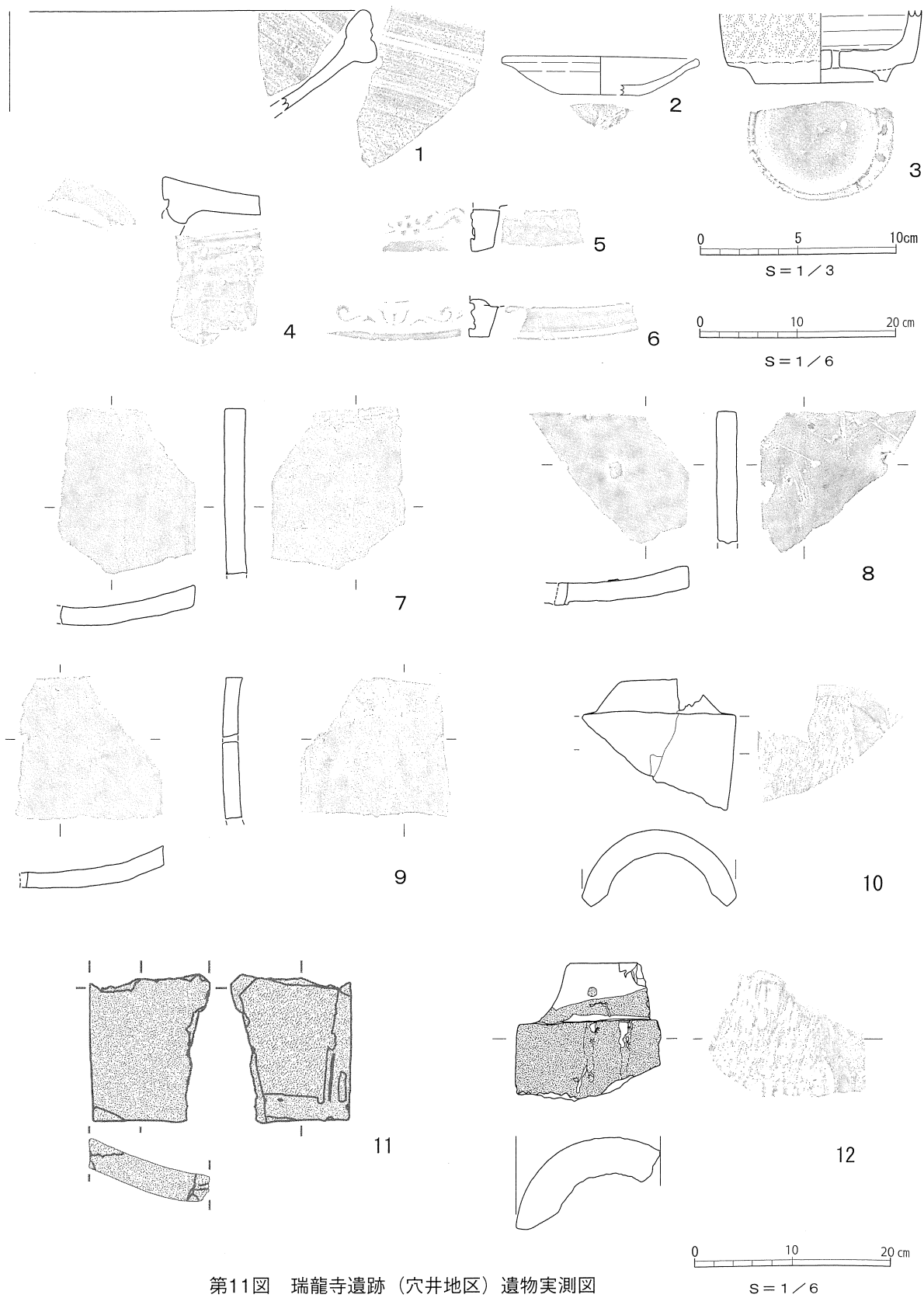
遺物は第2トレンチで古代土師器・古代須恵器が出土している。出土する土層は、第3層直上の第2層最下層であり、第2層は包含層と考えられる。

出土遺物のうち一部を図示した。1は近世越前焼のすり鉢である。2は近世土師器で灯明皿である。3は越中瀬戸焼の匣鉢で底部に穿孔があり窯道具と考えられる。4～10は近世燻瓦で、4は軒丸瓦、5・6は軒平瓦である。5は家紋瓦で、梅鉢文があしらわれ、17世紀前半に比定される。6は大坂式である。7～9は平瓦、10は丸瓦である。11は釉掛けの平瓦で、12は同様の丸瓦である。13は古代土師器の碗で、内外面赤彩を施し、底部に回転糸きり痕が残る。14は古代須恵器の双耳瓶の胴部と考えられる。

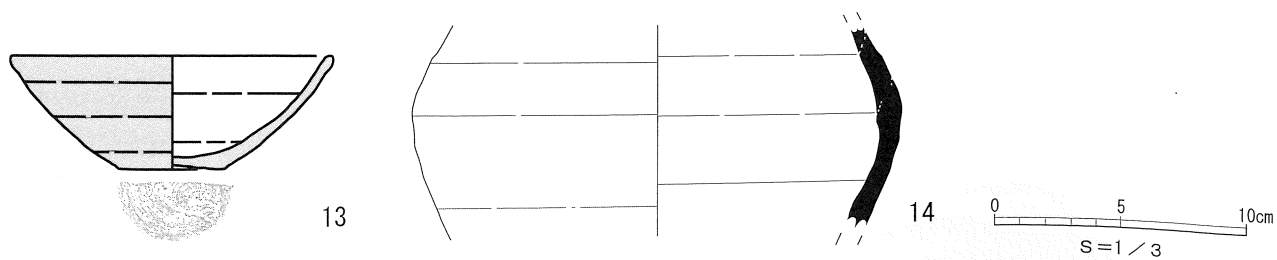
『市内遺跡調査概報33』に提示した、瑞龍寺遺跡範囲復元図（第13図）に今回の穴井・前花両地区の位置は、内堀の南西隅付近に位置すると想定される。付近には塔頭寺院の法性庵（第12図）、嘉永5年（1852）の高岡瑞龍寺等へ寿正院様参詣御縮絵図（金沢市立玉川図書館蔵）には、伽藍内排水のための水溜が描写され、今回の調査で検出した落ち込みが内堀またはそれら施設に起因するものと考えられるが明確な立ち上がりは確認できず、性格を明らかにできなかった。



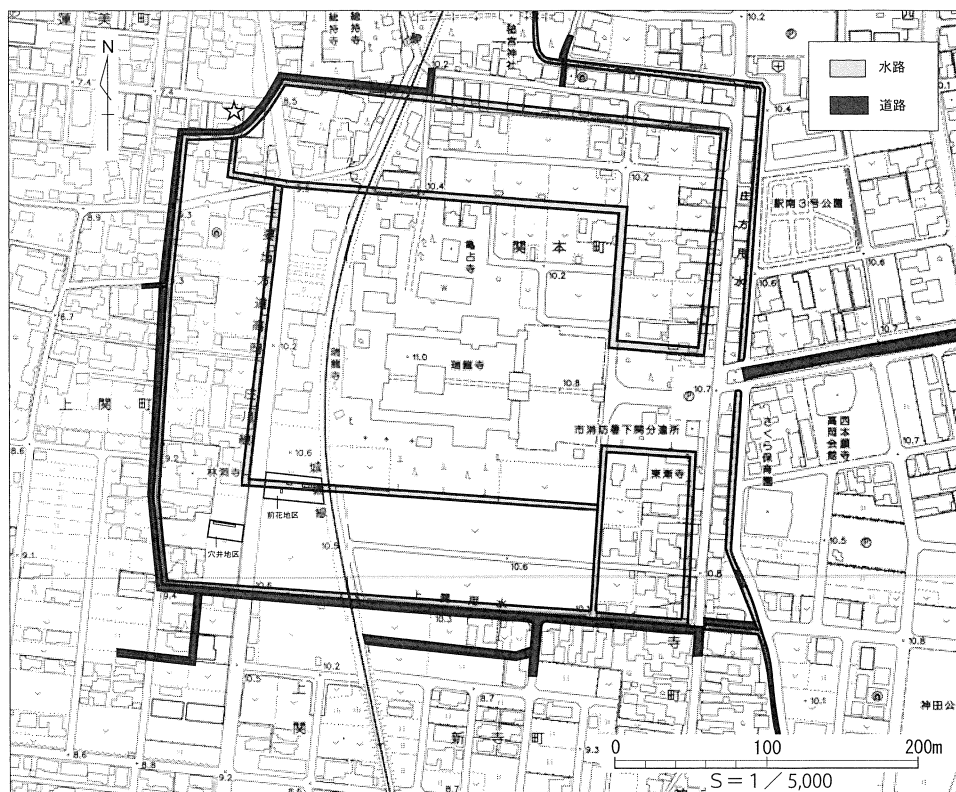
第10図 瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区）
調査区位置図



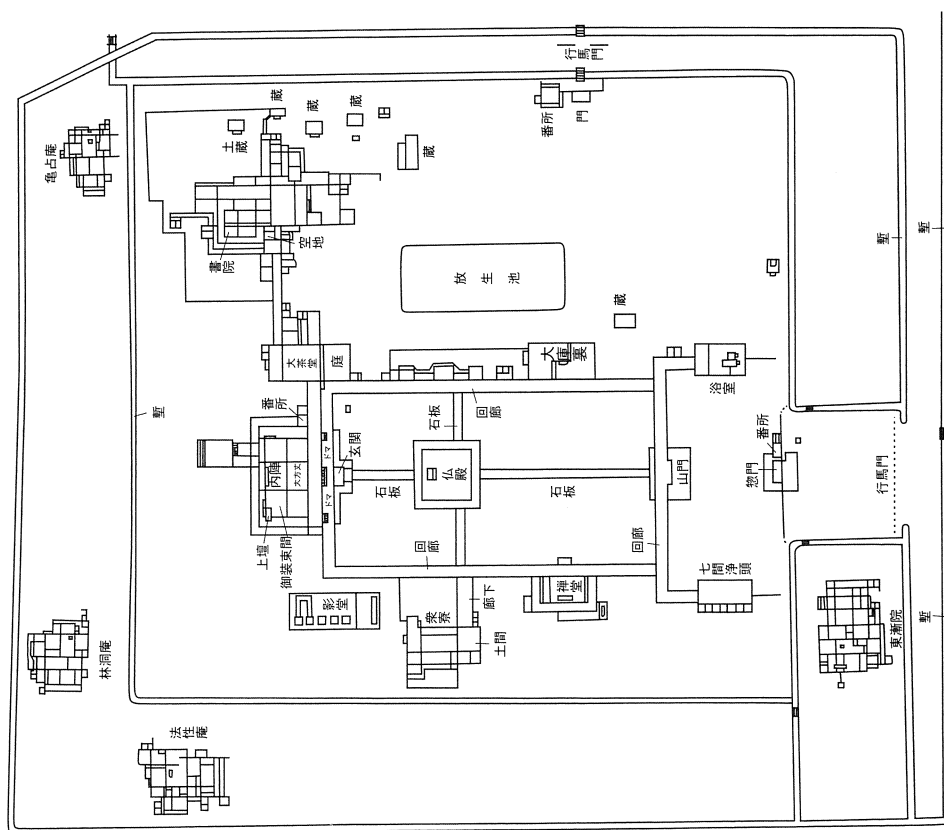
第11図 瑞龍寺遺跡（穴井地区）遺物実測図



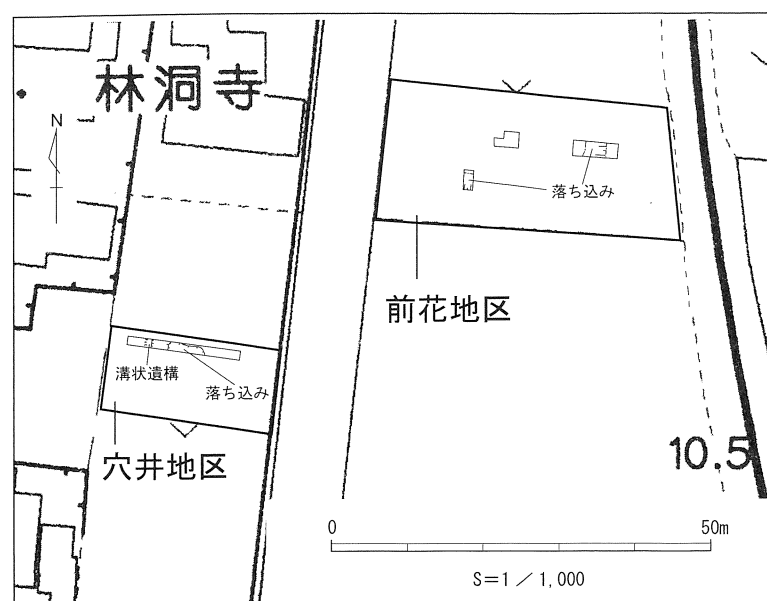
第12図 瑞龍寺遺跡（前花地区）遺物実測図



第13図 明治31年（1898）頃の瑞龍寺遺跡範囲復元図



第14図 瑞龍寺配置古図（『瑞龍閣記』付図 高岡市立図書館蔵）

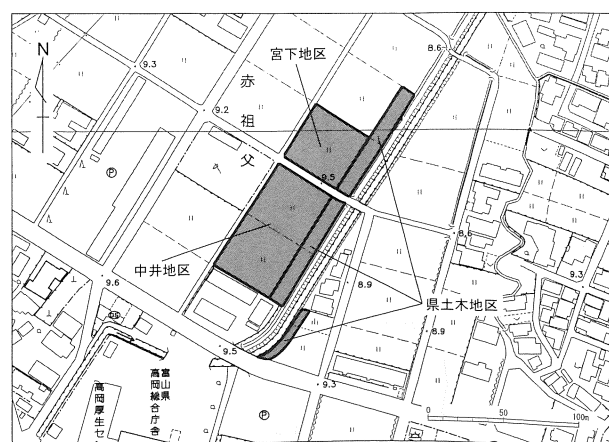


第15図 瑞龍寺遺跡（穴井地区・前花地区）遺構全体図

10 赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・宮下地区）

	(県土木地区)	(中井地区)
所在地	高岡市赤祖父63-2番、外10筆	高岡市赤祖父81番1、82番1
調査期間	令和5年11月21日～12月20日	令和5年12月5～6日、8日、11日
対象面積	1,874.66㎡	3,176㎡
試掘坑	11本	4本
発掘面積	179.4㎡	約167㎡
調査原因	河川改修	依頼（宅地造成）
検出遺構	土坑6基、溝7条	溝7条
出土遺物	弥生土器、土師器、古代須恵器、赤彩土師器、中世珠洲、中世土師器、近世陶磁器	弥生土器、古代須恵器、中世珠洲、時期不明土師器、石器（縄文、打斧・石皿）

	(宮下地区)
所在地	高岡市赤祖父65番1
調査期間	令和5年11月29日、12月4日
対象面積	1,555㎡
試掘坑	3本
発掘面積	約61.2㎡
調査原因	依頼（宅地造成）
検出遺構	溝2条
出土遺物	古代須恵器、時期不明土師器、中世珠洲



第16図 赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・宮下地区）調査区位置図

調 査 概 要

赤祖父羽佐間遺跡は、沖積平野の低地部に位置する。遺跡南側では昭和61年度に試掘調査が実施され、竪穴住居跡の掘り方や土坑、溝などが検出され、古墳時代から奈良時代の土師器・須恵器が出土している。平成7年度の定田地区や平成28年度のカネコ・コーポレーション地区では、弥生～中世の遺構や遺物が検出され、遺跡西側の集落のようすが垣間見える状況である。過去の出土遺物や調査結果により遺跡主体となる時代は古墳時代から平安時代に至るもので、平安時代や中世の遺物は少量出土している。

県土木地区は遺跡東側の南北を貫通するように位置する。調査は、対象地に試掘坑を11箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30～50cm、標高約7.6～7.9mで黄褐色土の地山を検出した。遺構は土坑6基と溝7条を検出した。遺物は弥生土器、古墳土師器、古墳赤彩土師器、古代須恵器、中世珠洲、中世土師器皿、近世陶磁器が出土した。

第1トレンチでは、土坑・溝が検出された。第2トレンチでは東西軸の溝が検出した。また、第4トレンチでは、南北方向の溝が検出された。

出土遺物のうち一部を図示した。15は弥生土器の鉢である。16は古代須恵器の瓶の体部である。17は古代の土師器甕の口縁である。18は中世瀬戸の小皿である。内外面に灰釉を施釉する。

中井地区は、遺跡の北側に位置する。周辺では、平成7年度定田地区の調査成果から集落の広がりが見定された。

調査は、対象地に試掘坑を4箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下30～50cm、標高約7.6～7.9mで黄褐色粘質土の地山を確認した。遺構は溝7条を検出した。遺物は弥生土器、古代須恵器、中世珠洲、時期不明土師器、石器（縄文、打斧・石皿）が出土した。

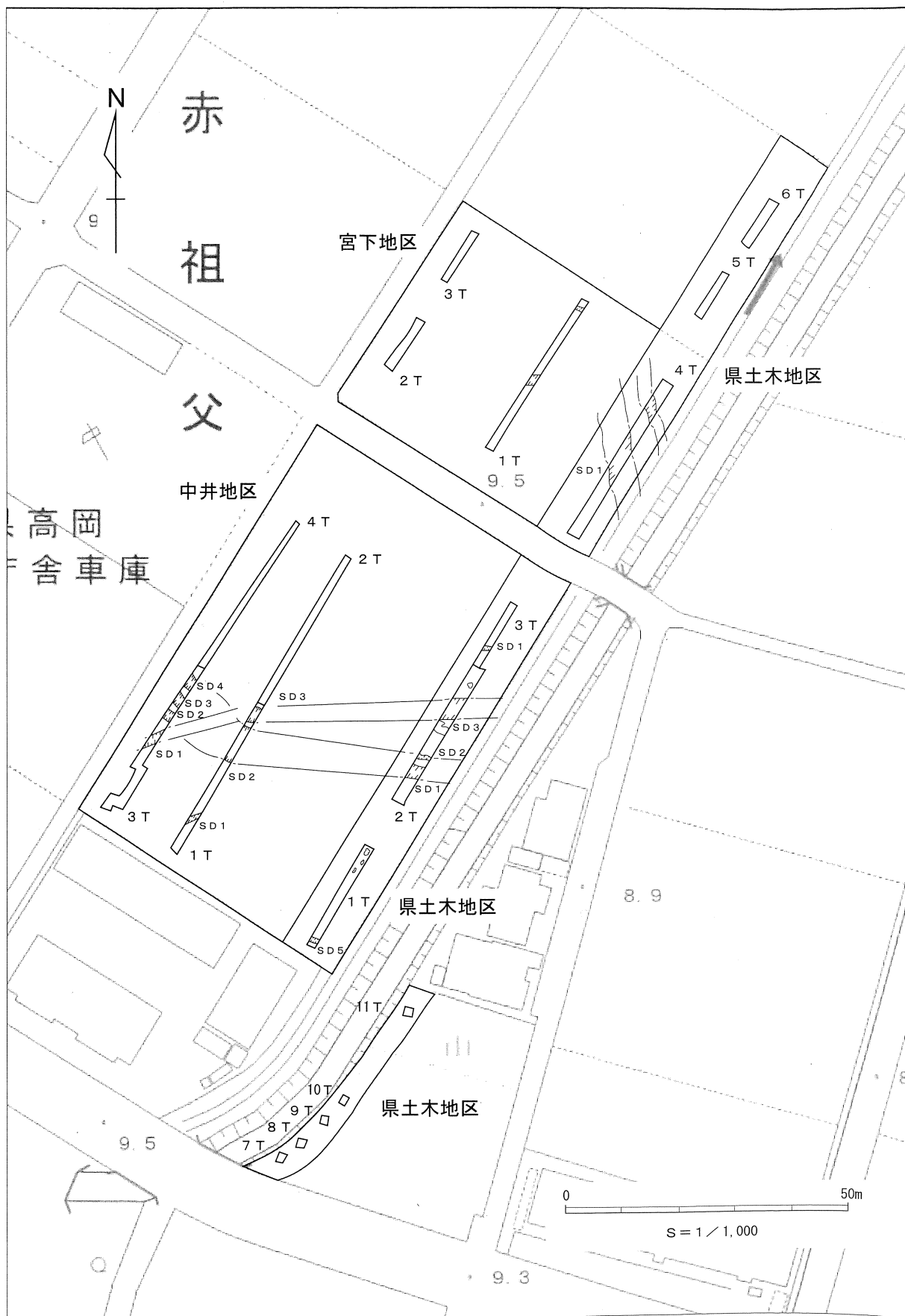
第1トレンチでは、溝3条の遺構が検出された。南側のSD01は、ほぼ東西軸の溝である。出土遺物はなかった。北側のSD02・03は北西―南東軸の幅の広い溝である。第3トレンチでは遺構は4条検出された。溝SD01は中井1T・SD01と同軸の溝である。SD02に切れ、方向的に県土木2T・SD01に続く可能性がある。溝SD02・03は中井1T・SD02に続く。全体の地形は、西から東に標高が下がっており二つの溝が1本に収束するものと考えられる。溝SD04は中井1T・SD03に続くと考えられる。

出土遺物のうち一部を図示した。19は縄文時代の打製石斧である。20は古墳時代の古式土師器の頸部から体部である。21は弥生土器・甕の口縁部である。

宮下地区は、遺跡の北側に位置する。周辺では、平成7年度定田地区の調査成果から集落の広がりが見定されるが、平成26年金山不動産地区と令和4年リブウェル地区では、遺構・遺物は検出されず、集落の広がりは見られない。

調査は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約40～50cm、標高約7.6～7.7mで黄褐色粘質土の地山を確認した。遺構は溝2条を検出した。遺物は古代須恵器、時期不明土師器、中世珠洲が出土した。出土遺物は小破片のみで図示できる遺物はなかった。

第1トレンチでは、遺構は溝2条が検出され、遺物は古代須恵器、時期不明土師器、中世珠洲が出土した。南側のSD01は南西―北東軸の溝で、平成7年度定田地区のSD04やSD06と同軸となる。また、第2・3トレンチでは、遺構が検出されず、遺物の出土もなかったが、2T南側の重機搬出口で掘削できなかった部分に、1T・SD01（南西―北東軸の溝）の続きが見つかる可能性がある。



第17図 赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区・中井地区・宮下地区）遺構全体図

検出遺構について

令和5年度は、遺跡中央を網羅するように試掘調査を実施することになった。ここでは、3地区で検出された遺構の関係性と帰属時期を整理したい。全体の傾向として、地久子川の右岸では多くの遺構・遺物が検出されたが、左岸は地山標高も低く、遺構遺物の検出もなかった。

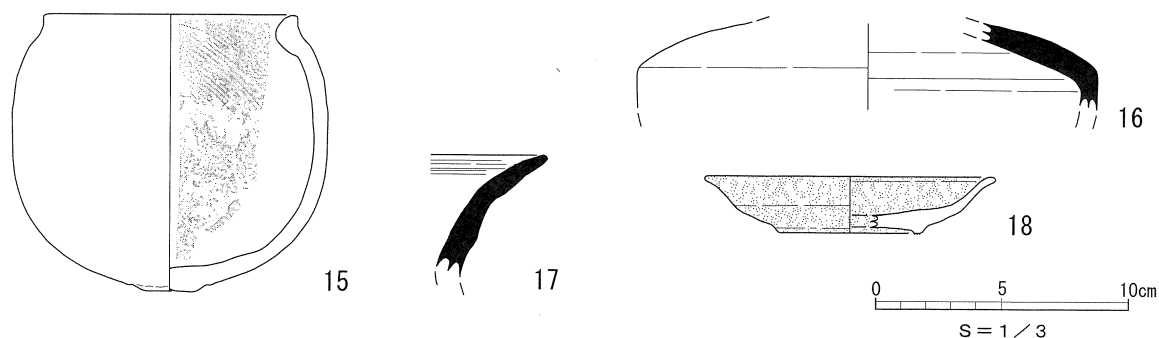
土坑群は県土木地区1 T北側で検出されたほか、第2トレンチ全体に広がっている。第3トレンチ以北は穴や土坑の検出がないことから、集落は第1～2トレンチに広がっていたと考えられる。中井地区・宮下地区はほ場整備に伴う削平を受け、浅い穴や土坑は残っていない。

溝は東西軸に走るものと、磁北主軸の南北に走る溝の2つの軸を確認した。中井地区・宮下地区は溝の底部がかろうじて残る状況である。

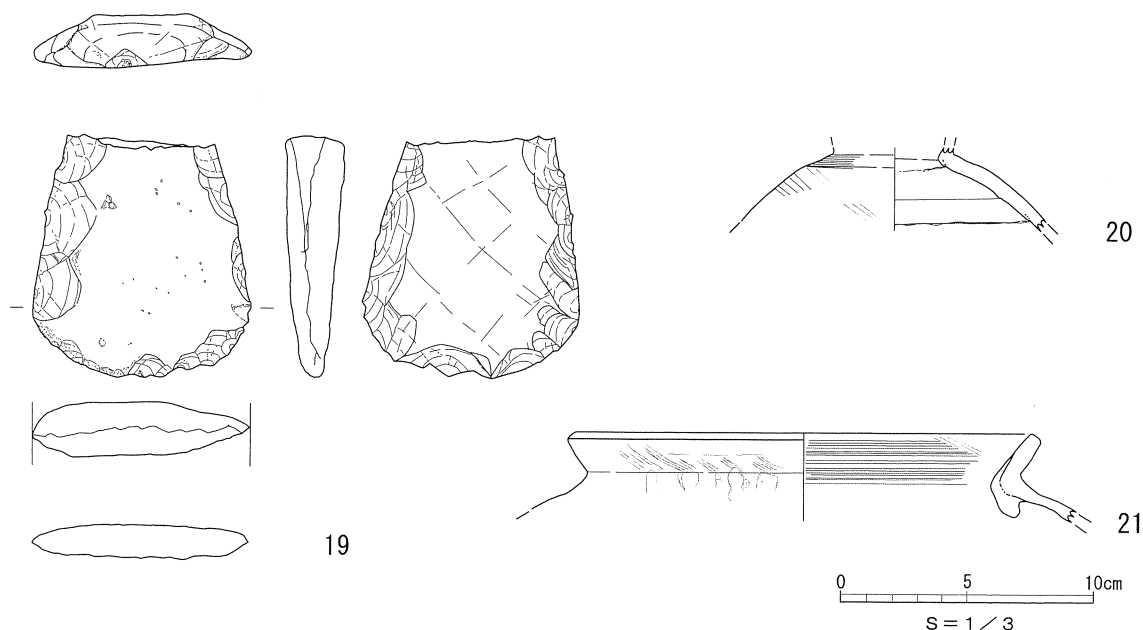
東西溝①は県土木2 T : SD01 = 中井地区1 T : SD2となり、中井地区3 T : SD02～04が続きになると考えられる。東西溝②は県土木2 T : SD03 = 中井地区1 T : SD03 = 中井地区3 T : SD01と続くと考えられる。その他、細い溝が確認できる。

南北軸の溝は、県土木4 TのSD01とSD02がある。溝からは、古代須恵器が出土しており、古代以降のものと考えられる。

上記のことから、3地点全てで集落の存在を確認した。しかし、後世のほ場整備の影響により、残存状況は悪いことを指摘したい。平成2年度の試掘調査の成果で、遺構遺物が少ない部分もあることから、集落の中心は地久子川右岸にあることが判明し、弥生時代から中世にかけて、集落が営まれたと考えられる。



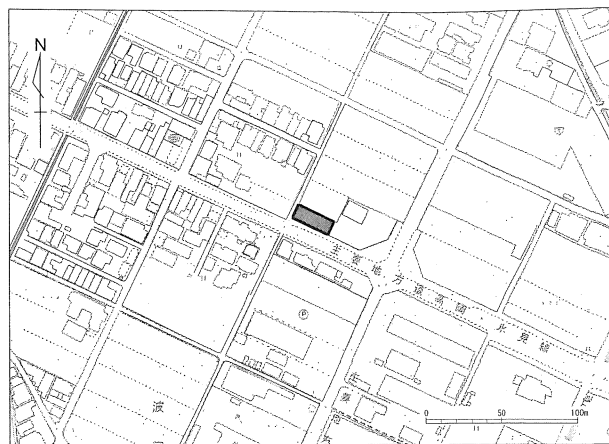
第18図 赤祖父羽佐間遺跡（県土木地区）遺物実測図



第19図 赤祖父羽佐間遺跡（中井地区）遺物実測図

11 波岡西遺跡（前田地区）

所在地	高岡市波岡316番5
調査期間	令和5年12月14日
対象面積	282㎡
試掘坑	1本
発掘面積	約20㎡
調査原因	その他建物（美容室）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第20図 波岡西遺跡（前田地区）調査区位置図

調査概要

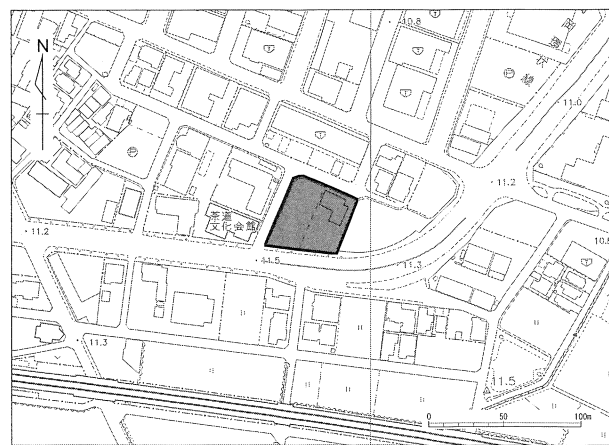
本地点は波岡集落の西側の低地部分に立地し、波岡西遺跡の西側に位置する。平成7年度の分布調査では、古墳・飛鳥～古代の須恵器が近辺から表採されているが、周辺の試掘調査では、遺構・遺物ともに検出事例はない。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約25cm、標高約5.5～5.6mで青灰色砂質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

地山は平坦であり、キャタピラや農機具痕跡があることから、耕地整理時に削平されたと想定される。波岡西遺跡の低地部分の試掘調査で遺構・遺物がないことから、南側・西側への広がりはないと想定される。

12 高岡問屋センター遺跡（松村地区）

所在地	高岡市問屋町165番1、165番3、165番4、 165番5、410番、411番、414番
調査期間	令和6年1月24日、29日
対象面積	2,029㎡
試掘坑	5本
発掘面積	69.6㎡
調査原因	依頼（商業施設）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第21図 高岡問屋センター遺跡（松村地区）

調査区位置図

調査概要

本地点は高岡問屋センターの南側の低地部分に位置する。令和元年度の北雄ホームサービス地区の試掘調査では、土坑、溝が検出され、古代土師器、中世珠洲、時期不明土師器が出土している。

調査は、対象地に試掘坑を5箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約90～130cm、標高約9.7～9.9mで灰色砂の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

高岡問屋センター遺跡の低地部分の試掘調査で遺構・遺物がなかったことから、南側への広がりはないと想定される。

13 波岡南遺跡（松井地区）

所在地	高岡市波岡142-1外14筆
調査期間	令和6年2月15日～3月27日
対象面積	9,159㎡
試掘坑	15本
発掘面積	269㎡
調査原因	依頼（宅地造成）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



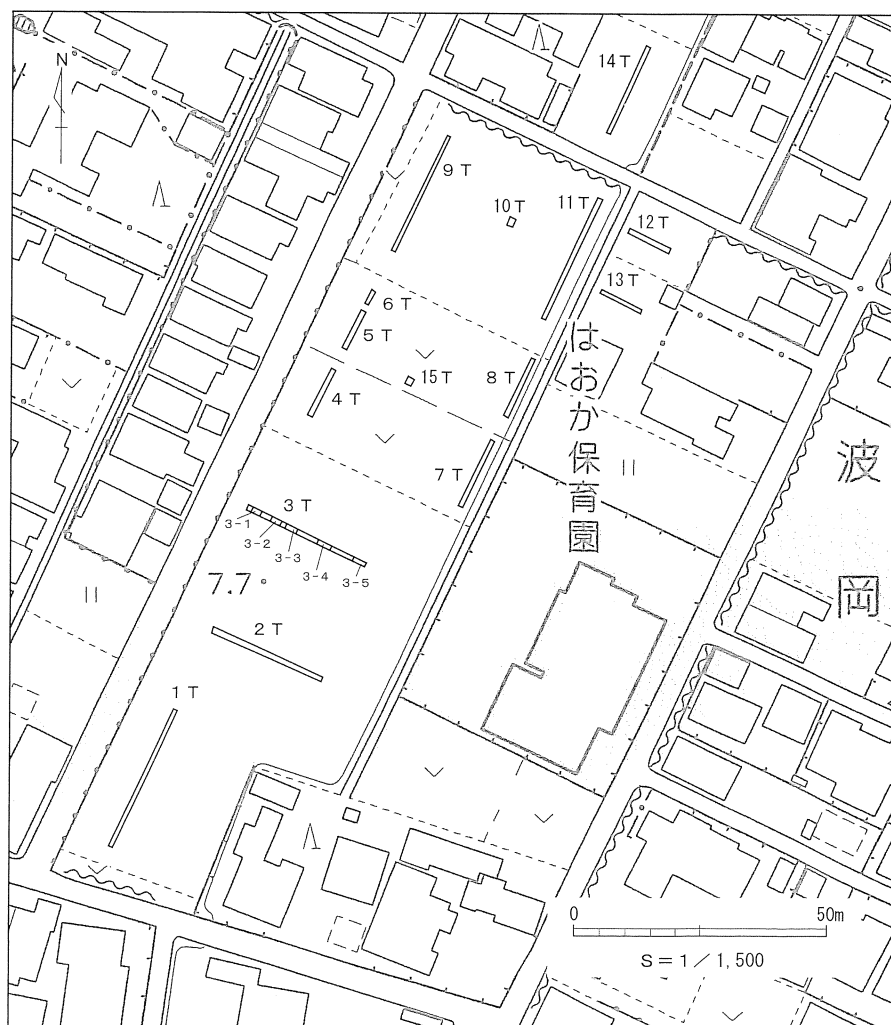
第22図 波岡南遺跡（松井地区）調査区位置図

調査概要

本地点は波岡集落の南側の微高地に位置する。『高岡市史』上巻には、波岡遺跡として、弥生時代の土器の出土地として紹介されている。分布調査では古代・中世の遺物が採集され、平成15年度の加藤地区の試掘調査では、古代から中世の遺構・遺物が検出されている。

調査は、対象地に試掘坑を15箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20～170cm、標高約5.9～7.5mで明褐色粘質土や灰色粘質土の地山を確認し、一部、段丘の落ち際を検出した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

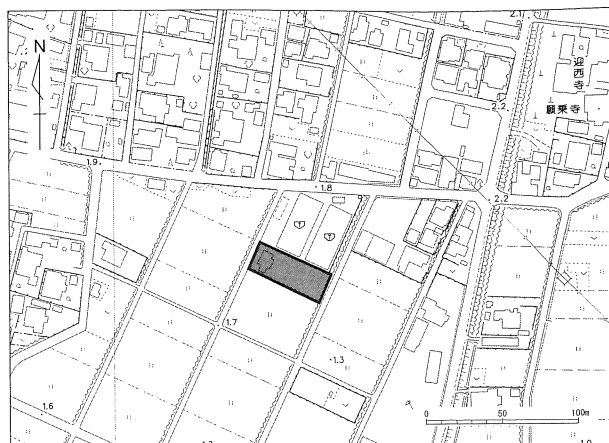
速川神社の周辺は一段標高が高く、平成15年の加藤地区でも遺構・遺物の出土があることから、遺跡の中心は本地点東側にあるが判明した。本地点西側については、小矢部川に向かって緩やかに下る地形であり、東側の耕地の地下水が集まる「深田」と考えられる。



第23図 波岡南遺跡（松井地区）トレンチ図

14 中曽根館遺跡（石灰地区）

所在地	高岡市中曽根948番1、948番2、 948番3
調査期間	令和6年2月26、28日
対象面積	約968㎡
試掘坑	3本
発掘面積	37.2㎡
調査原因	その他開発（資材置場）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第24図 中曽根館遺跡（石灰地区）調査区位置図

調査概要

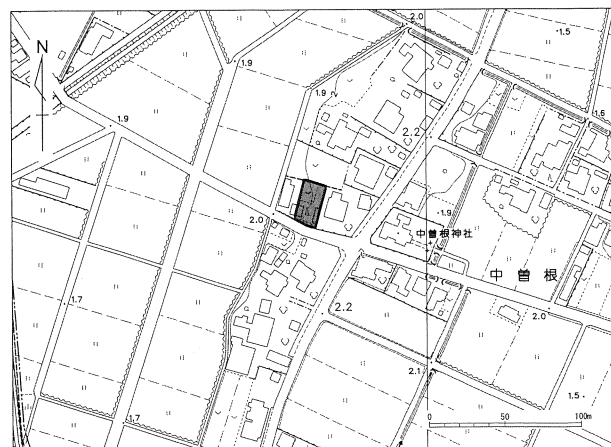
本地点は遺跡の南側の低地部分に位置する。平成15年度の稲垣地区や令和4年度の大坂地区の試掘調査では、弥生から中世の集落が見つかっている。

調査は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約130～160cm、標高約-0.3～0mで青灰色砂の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

平成28年度の圃場整備地区の試掘調査結果でも遺構・遺物がなく、本地点の調査結果を加味すると、南側への遺構の広がりはないと想定される。

15 中曽根西遺跡（宮腰地区）

所在地	高岡市中曽根579番
調査期間	令和6年2月29日
対象面積	347㎡
試掘坑	2本
発掘面積	14.75㎡
調査原因	個人住宅
検出遺構	溝1条
出土遺物	なし



第25図 中曽根西遺跡（宮腰地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。平成21年度の土地区画整理事業に伴う本発掘調査や平成29年度の圃場整備地区の試掘調査では、弥生から中世の集落が見つかっている。

調査は、対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約50～70cm、標高約0.3～0.5mで褐色砂の地山を確認した。遺構は溝1条を検出し、遺物の出土はなかった。

16 東木津遺跡（上野地区・多田地区）

	（上野地区）	（多田地区）
所在地	高岡市木津1048-1	高岡市木津1048
調査期間	令和6年3月5日	令和6年3月4日
対象面積	932㎡	180㎡
試掘坑	3本	2本
発掘面積	79.25㎡	37㎡
調査原因	依頼（その他建物）	依頼（その他建物）
検出遺構	溝7条	溝3条
出土遺物	なし	なし

調査概要

本地点は遺跡の北の端部に位置する。周辺では、都市計画道路下伏間江福田線築造に伴う平成9・10年度の本調査の結果、古代を中心とした遺構・遺物が検出されている。

上野地区は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20～40cm、標高約10.4～10.7mで黄褐色砂の地山を確認した。遺構は溝7条を検出し、遺物の出土はなかった。

第1トレンチでは、現地表面下約20～30cm、標高約10.4～10.6mで地山を検出した。遺構は溝2条が検出され、遺物は出土しなかった。

第2トレンチでは、現地表面下約20～40cm、標高約10.4～10.7mで地山を検出した。遺構は溝5条が検出され、遺物は出土しなかった。検出した溝のうち、3条は多田地区につながるもの、また1条は1T南側の溝につながるものである。

また、第2トレンチの南側の遺構の有無を確認するため、南側の延長上に第3トレンチを設定したところ、現地表面下約40cm、標高約10.6mで地山を検出した。遺構の検出はなく、遺物は出土しなかった。

検出された溝の相関関係は、1T・SD01=2T・SD01=多田地区2T・SD03、1T・SD02=2T・SD02となる。全ての溝の時期把握と深さ確認のため、検出された部分を全て掘削したが、遺物の出土はなかった。また、周辺の調査区の成果に合致するものがないことから、帰属時期は把握できなかったが、全域に溝が広がっていることが判明した。

多田地区は、対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約40cm、標高約10.5mで黄褐色砂の地山を確認した。遺構は溝3条を検出し、遺物の出土はなかった。

全ての溝は東西軸の溝で、埋土はいずれも黒褐色土である。埋土からの遺物の出土はなかった。溝のうち、SD1・2は幅約50～60cm程度、SD3は幅1mと若干幅広い。

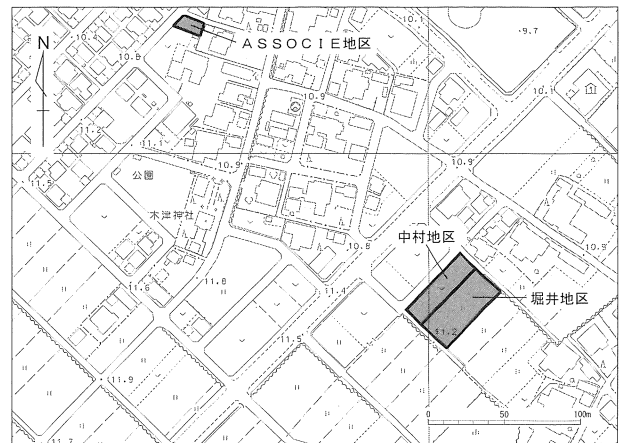


第26図 東木津遺跡（上野地区・多田地区）
調査区位置図

17 中木津遺跡（ASSOCIE地区・堀井地区・中村地区）

	（ASSOCIE地区）	（堀井地区）
所在地	高岡市木津2355番	高岡市木津919番2、920番1
調査期間	令和6年3月8日	令和6年3月8日、11日
対象面積	189㎡	1,107㎡
試掘坑	1本	3本
発掘面積	10.4㎡	112㎡
調査原因	依頼（個人住宅）	依頼（その他建物）
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし

	（中村地区）
所在地	高岡市木津919番1
調査期間	令和6年3月13日
対象面積	744㎡
試掘坑	1本
発掘面積	50.4㎡
調査原因	依頼（その他建物）
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第27図 中木津遺跡（ASSOCIE地区・堀井地区・中村地区）調査区位置図

調査概要

中木津遺跡は、佐野台地の扇状地端部に位置する。周辺の試掘調査や本発掘調査の結果、縄文時代晩期の遺構・遺物や古代・中世の集落が検出された。ここでは、隣接する3地点について、報告を行う。

ASSOCIE地区は、遺跡の北側に位置する。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約50cm、標高約9.9～10.0mで灰色砂の上層の地山を検出し、下層の地山は灰色土で地表面下約110cm、標高約9.5mにて検出した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

堀井地区は、遺跡の東端に位置する。平成22年度の高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う本発掘調査の区画整理3区・E地点の東側に位置する。

調査は、対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30～50cm、標高約10.0～10.2mで灰色砂の上層の地山を検出し、地表面下約70～80cm、標高約9.7～9.8mで灰色土の下層の地山を検出した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

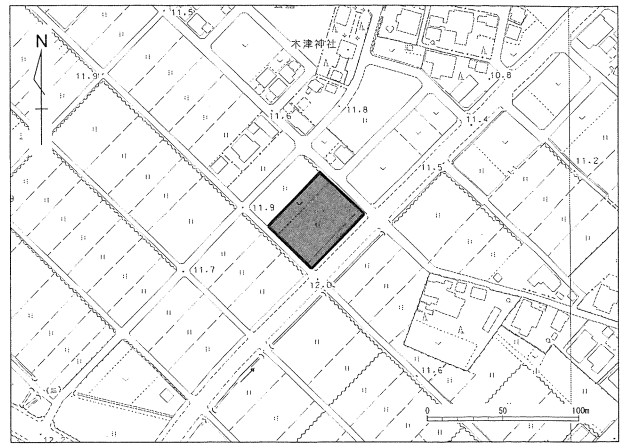
中村地区は、遺跡の東側に位置する。

調査は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約100cm、標高約9.7～9.8mで灰色砂の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

上記3地区の調査の結果、中央北側と南側への包蔵地の広がりはなく、本調査E地点の遺構群は東側に続かないことが判明した。

18 中木津遺跡（フォレストリーフ地区）

所在地	高岡市木津1003番1、1004番1、 1005番1、1005番3
調査期間	令和6年3月14～15日、18～19日
対象面積	2,004㎡
試掘坑	4本
発掘面積	167㎡
調査原因	集合住宅
検出遺構	溝3条
出土遺物	なし



第28図 中木津遺跡（フォレストリーフ地区）

調査区位置図

調査概要

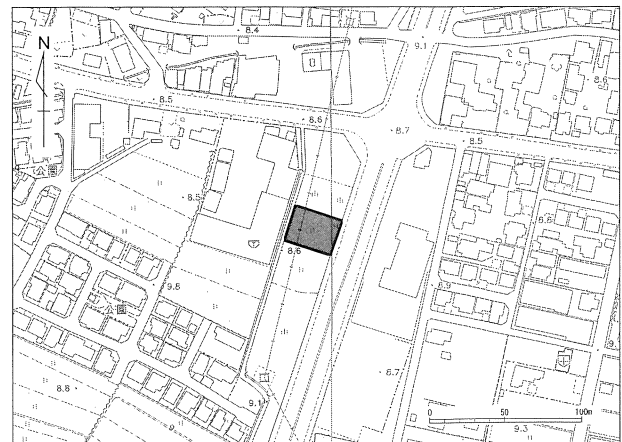
本地点は遺跡の南東に位置する。平成22年度の高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う本発掘調査では、古代・中世の遺構と遺物が検出されている。

調査は、対象地に試掘坑を4箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30～50cm、標高約10.3～10.4mで灰色土の地山を確認した。遺構は溝3条を検出し、遺物の出土はなかった。

第1トレンチ中央と第2トレンチ北で検出された溝3は、本発掘調査・区画整理3区SD6の続きとなり、中世以降の溝と考えられる。なお、隣接する区画整理3区から続く遺構は溝3のみで、遺構検出数が著しく少ないことから、耕地整理時に大幅な削平をされていることが想定され、溝のみが残っている状況と考えられる。

19 井口本江遺跡（大塚地区）

所在地	高岡市井口本江字五俣刈89-1
調査期間	令和6年3月19日、21日
対象面積	約919㎡
試掘坑	2本
発掘面積	42.2㎡
調査原因	依頼（その他建物）
検出遺構	溝1条
出土遺物	なし



第29図 井口本江遺跡（大塚地区）調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北端に位置する。県道能町庄川線の本調査の結果から、縄文晩期から古代、中世の遺物を伴う集落が近くまで広がる場所である。

調査は、対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約50～60cm、標高7.5～8.1m付近で灰色粘質土、青灰色粘質土の地山を確認した。遺構は溝1条を検出し、遺物の出土はなかった。

第1・2トレンチで検出された溝と県道の調査成果と合わせると、県道A区の中世以降に帰属する溝SD240の延長上にあることが推測される。ただし、本地点の遺構の検出状況から、遺構は削平を受けていると想定され、県道A区も土坑などの遺構は見られないことから、集落は北には広がらず、深く掘られた溝1本が残っている状態と考えられる。

20 中保B遺跡（佐久間地区・岡本地区）

所在地 高岡市中保1285番1
 調査期間 令和6年3月25日
 対象面積 225.43㎡
 試掘坑 1本
 発掘面積 10.4㎡
 調査原因 個人住宅
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし

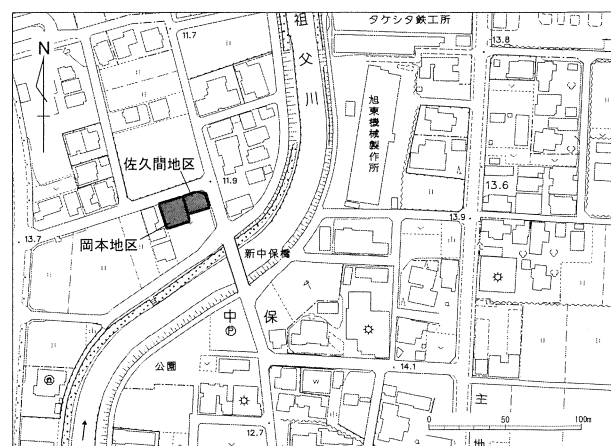
（岡本地区）
 高岡市中保1285-5
 令和6年3月25日
 225.43㎡
 1本
 8.4㎡
 個人住宅
 なし
 なし

調査概要

本地点は遺跡の北側に立地する。周辺の試掘調査では、遺構・遺物の検出事例はなく、集落の広がり確認できていない。

佐久間地区は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約110～220cm、標高約9.9～11.0mで灰色砂の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

岡本地区は、対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約150～170cm、標高約10.5～11.0mで灰色砂の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。



第30図 中保B遺跡（佐久間地区・岡本地区）
 調査区位置図

範 囲 確 認 調 査

第3章 範囲確認調査

第1節 調査の経緯と目的

新元号が「令和」になり、万葉集やその時代に対する注目が高まったことを受けて、高岡市では令和2年度から万葉集に縁のある伏木台地を含む市北部地域全体の魅力を再認識し、それらに関する事業に取り組んでいる。

その中でも伏木台地の中央に位置する御亭角廃寺跡は、福井県越前市の深草廃寺とともに北陸で最古の寺跡とされている。昭和初期から古代の瓦が採集されるとともに、富山県、高岡市によって一部調査されているが、調査主体が異なるため、すべての資料が把握できず、御亭角廃寺跡の実態をつかめていない状況である。

既往の調査資料を把握するとともに、遺跡の範囲や遺存状況の確認等、適切な調査を実施することで、御亭角廃寺跡の学術的価値や特徴を明らかにし、遺跡の保存と活用を図ることを目的とする。

第2節 既往の調査

昭和11年（1936）6月、重弧文軒平瓦の破片が一個採集された。これは、奈良時代よりも古い瓦で、都から遠く離れた地方では、めったに発見されることがないと言われてきた形式の瓦である。

昭和25年（1950）、当時、伏木小学校教諭であった古岡英明は、瓦の出土地である御亭角に因んで、白鳳時代（645～710）の「御亭角廃寺」として、初めて学会に紹介した（古岡1950）。

昭和41年（1966）、越中国分寺とその周辺の遺跡調査団、富山県教育委員会によって、御亭角に残る土塁とその周辺の発掘調査が実施された。古岡が主任調査員となり、調査を指揮したところ、古代と考えられる柱穴を検出した。しかし同時に、発掘調査した大部分が近代の瓦工場の粘土採掘によって攪乱を受けていることも確認した（越中国分寺とその周辺の遺跡調査団編1967）。

御亭角廃寺の研究が大きく前進したのは、昭和57～8年（1982～3）の富山県埋蔵文化財センターによる、小杉丸山遺跡の発掘調査である。この調査では、窯跡と大量の数量の須恵器、土師器、瓦が発掘された。瓦の中には完全な形の平瓦、丸瓦、それに八葉単弁蓮華文の軒丸瓦もあった。そして、窯跡から出土した須恵器の様式により、七世紀後半のものとわかった（富山県教育委員会1983）。

また、この小杉丸山遺跡で出土した軒丸瓦と平瓦が、御亭角廃寺と同型であると確認したことから、小杉丸山遺跡は、御亭角廃寺へ瓦を供給する生産地の一つであることが証明されるとともに、御亭角廃寺が7世紀後半（660～700年頃）に機能していたことが判明した（西井1983）。

さらに、昭和60年（1985）頃から、高岡市教育委員会による発掘調査が始まっており、御亭角廃寺跡周辺でも試掘調査を実施している。昭和61年（1986）の調査では、八葉単弁蓮華文の瓦が出土しており、小杉丸山遺跡と同型のものであったため、先の成果を補強するものである（高岡市教育委員会1987）。平成19年（2007）の調査では、中世の城郭遺構に加えて、古代の柵跡、土坑、溝、瓦溜まりが検出された（高岡市教育委員会2009）。

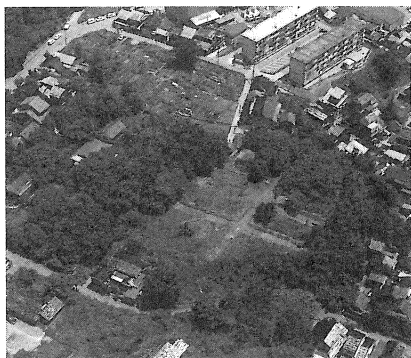


Aトレンチ13区（土塁西壁）断面



Aトレンチ（南より）

（富山県教育委員会1967『越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書』）



昭和61年（1986）調査区全景



平成19年（2007）能松地区 古代の土坑SK01
（第7トレンチ、北）

第3節 位置と環境

第1項 地理的環境

御亭角廃寺跡の立地する伏木台地は、二上丘陵の東麓、小矢部川の河口左岸に発達した河岸段丘である。南北2.1km、東西約1.2kmの伏木台地は、西側には二上山の丘陵山地が急崖となっており、北東側には海岸平野が、東側には沖積平野が段丘崖を隔てて展開している。北西側は、加古川によって、南側は矢田の浸食谷によって区画されている。この台地は、上位と下位の段丘に区分されるが、標高14～16mの下位段丘が大部分を占める。下位段丘には、赤坂浸食谷と古府浸食谷の2つの主要な浸食谷が入り込んで、3つの舌状台地になっている。この3つの舌状台地の呼称は、採用する地形図によって異なっている。今回、昭和62年（1987）に刊行された『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』の地形図を使用するため、「北部台地」、「中部台地」、「南部台地」と呼称することにする。

上位段丘は、標高50～89mで、台地北側には越中一宮氣多神社が位置している。北部台地は、南東端部に伏木小学校、北西端部に伏木高等学校が位置している。中部台地は、東側に勝興寺、西側に伏木中学校が位置している。中部台地は、北側の赤坂浸食谷から南側へ浅く支谷が入り、さらに2つに分けている。南部台地は、中央に古府小学校が位置している。

御亭角廃寺跡は、伏木台地の中部台地に位置しており、勝興寺の南側、南北約150m、東西約200m辺りには、「御亭角」という字名が残っており、かつて勝興寺の御亭（休憩所や茶室のようなもの）があったと考えられる。

第2項 歴史的環境

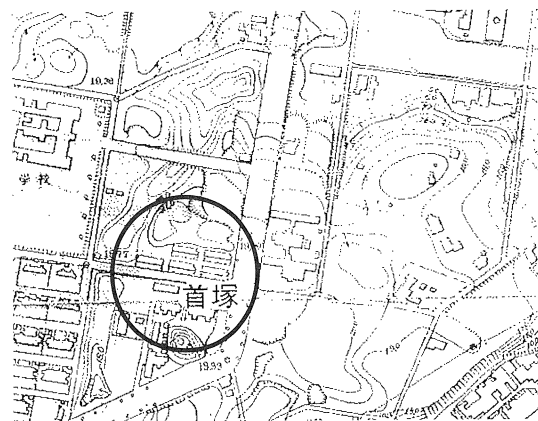
1 縄文時代

古岡英明による表面採集資料に縄文土器や石器がある。縄文土器は、中期から後期に帰属するものが多く、いずれも小破片である。石器は、伏木台地の各地から採集されているが、特に、北部台地、中部台地で多く採集されており、磨製石斧が中心である。採集された縄文土器や石器は伏木小学校のふるさと博物館に所蔵されている。

2 古墳時代

北部台地の端には、大塚遺跡が立地していたが、現在では削平され消滅している。この遺跡は、かつて「大塚古墳」と呼ばれ、昭和30年代には、北側の一部だけが残っており、幅1.8mの空堀が認められていた。出土品は須恵器の破片だけであった（高岡市1959）。

南部台地には、「古府古墳」、「首塚古墳」、「千人塚古墳」、「矢田窪古墳」で構成された古府古墳群が立地していたが、現在では削平され消滅している。宅地化や台地中央を走る十間道路の開発の際、遺物が出土している。



第31図 昭和24年（1949）伏木地形図
（高岡市教育委員会1994『越中勝興寺伽藍』）



昭和61年（1986）調査区全景



平成19年（2007）能松地区 古代の土坑SK01
（第7トレンチ、北）

第3節 位置と環境

第1項 地理的環境

御亭角廃寺跡の立地する伏木台地は、二上丘陵の東麓、小矢部川の河口左岸に発達した河岸段丘である。南北2.1km、東西約1.2kmの伏木台地は、西側には二上山の丘陵山地が急崖となっており、北東側には海岸平野が、東側には沖積平野が段丘崖を隔てて展開している。北西側は、加古川によって、南側は矢田の浸食谷によって区画されている。この台地は、上位と下位の段丘に区分されるが、標高14～16mの下位段丘が大部分を占める。下位段丘には、赤坂浸食谷と古府浸食谷の2つの主要な浸食谷が入り込んで、3つの舌状台地になっている。この3つの舌状台地の呼称は、採用する地形図によって異なっている。今回、昭和62年（1987）に刊行された『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』の地形図を使用するため、「北部台地」、「中部台地」、「南部台地」と呼称することにする。

上位段丘は、標高50～89mで、台地北側には越中一宮氣多神社が位置している。北部台地は、南東端部に伏木小学校、北西端部に伏木高等学校が位置している。中部台地は、東側に勝興寺、西側に伏木中学校が位置している。中部台地は、北側の赤坂浸食谷から南側へ浅く支谷が入り、さらに2つに分けている。南部台地は、中央に古府小学校が位置している。

御亭角廃寺跡は、伏木台地の中部台地に位置しており、勝興寺の南側、南北約150m、東西約200m辺りには、「御亭角」という字名が残っており、かつて勝興寺の御亭（休憩所や茶室のようなもの）があったと考えられる。

第2項 歴史的環境

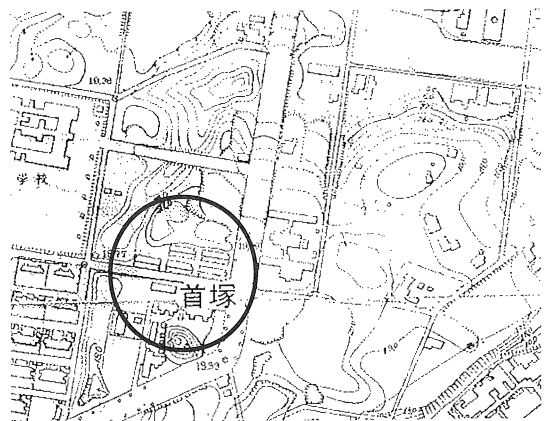
1 縄文時代

古岡英明による表面採集資料に縄文土器や石器がある。縄文土器は、中期から後期に帰属するものが多く、いずれも小破片である。石器は、伏木台地の各地から採集されているが、特に、北部台地、中部台地で多く採集されており、磨製石斧が中心である。採集された縄文土器や石器は伏木小学校のふるさと博物館に所蔵されている。

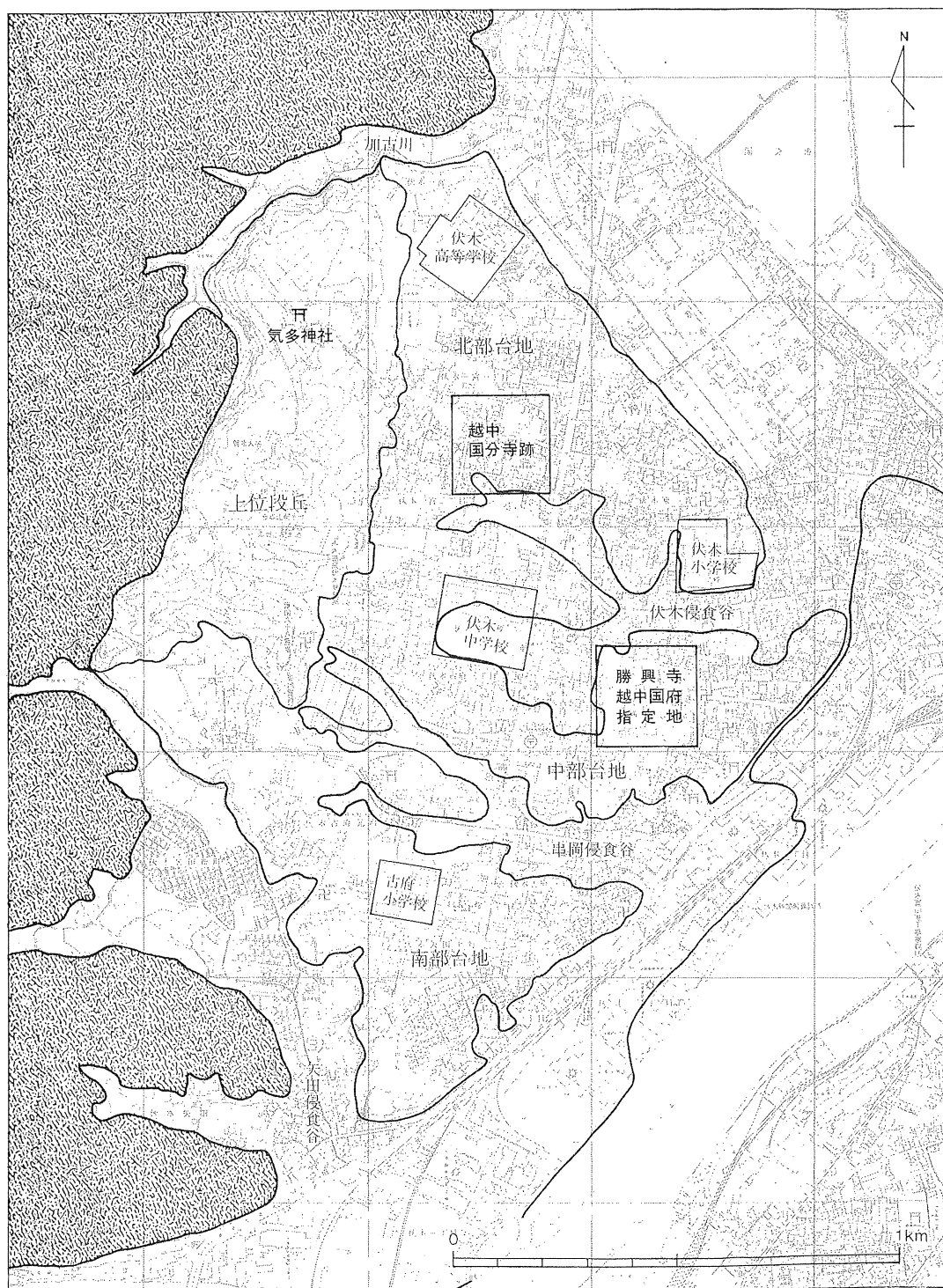
2 古墳時代

北部台地の端には、大塚遺跡が立地していたが、現在では削平され消滅している。この遺跡は、かつて「大塚古墳」と呼ばれ、昭和30年代には、北側の一部だけが残っており、幅1.8mの空堀が認められていた。出土品は須恵器の破片だけであった（高岡市1959）。

南部台地には、「古府古墳」、「首塚古墳」、「千人塚古墳」、「矢田窪古墳」で構成された古府古墳群が立地していたが、現在では削平され消滅している。宅地化や台地中央を走る十間道路の開発の際、遺物が出土している。



第31図 昭和24年（1949）伏木地形図
（高岡市教育委員会1994『越中勝興寺伽藍』）



第32図 伏木地域地形図

古府古墳は、古府浸食谷に面する西側に立地し、径約10mの円墳であり、須恵器と刀子が出土した。首塚古墳は、古府古墳の西南部近くに立地し、大型の円墳であり、多数の人骨と刀剣、須恵器が出土したが、再び土中に埋めたとする。昭和24年（1949）の伏木の地形図を確認すると「首塚」が確認できる（第31図）。千人塚古墳は、南部台地の東端、小矢部川沿いに立地し、多数の須恵器片が出土した。矢田窪古墳は、首塚に相対して立地し、方墳であり、石室が確認されている。石室は南北2.5m、東西1.7mで70余りの岩崎石で組んであった。出土した副葬品は須恵器（高杯1、椀1、杯1、瓶1）と直刀1振である（高岡市1959）。

3 古代

古代の遺跡は、御亭角廃寺跡、寺山遺跡、越中国府（推定地周辺）、越中国分寺跡である。御亭角廃寺の時期は、7世紀後半（660～700年頃）で、福井県越前市の深草廃寺とともに北陸最古である。この寺院を築いたのは、伊弉頭国造の末裔と言われる豪族 射水臣と考えられている（古岡1991）。

寺山遺跡は、越中一宮氣多神社境内地を含み南北に広がっている。採集されている遺物には数多くの須恵器、土師器ほか平瓦、埴がある。須恵器などから8世紀後半から10世紀に及ぶ遺跡だと考えられている。

越中国府は、伏木台地にあったとされ、8世紀始め頃に設置されたと推定されている（山口2001）。国府跡推定地付近の発掘調査では、官衙クラス的大型掘立柱建物跡が検出された。これらは8世紀中葉から9世紀前半頃のものであり、国府の整備はやはり8世紀中葉近くからはじまる可能性が高い。

越中国分寺跡は、越中国に造営された国分寺であり、その造営時期は明確ではないが、天平20年（748）に国師に付き従う僧であった清見の送別会を催したことが万葉集の代表的歌人・大伴家持が詠んだ歌より確認できることから、この頃すでに越中国分寺の造営が進んでいたと考えられる。現在地は、昭和初期の発掘調査により、昭和40年（1965）に富山県の史跡に指定されている。

4 中世

中世の遺跡は、白山経塚と古国府城跡である。白山経塚は、古府谷と矢田谷を北と南に見下ろす段丘があり、その稲荷社の近辺で、昭和6年（1931）3月、道路工事の際に経筒が発見されたことから、経塚の存在が知られるところとなった。平安時代後期から鎌倉時代のもと考えられている（白鳳会2009）。高岡市の指定文化財である。

古国府城は、戦国期、射水・婦負両郡の守護代として大きな勢力を有した神保氏の出城だと伝えられている。平成19年（2007）に高岡市教育委員会によって、土塁の発掘調査が実施された。調査の結果、出土した土師器皿から16世紀代に古国府城が存在していたことが明らかになった。

5 近世

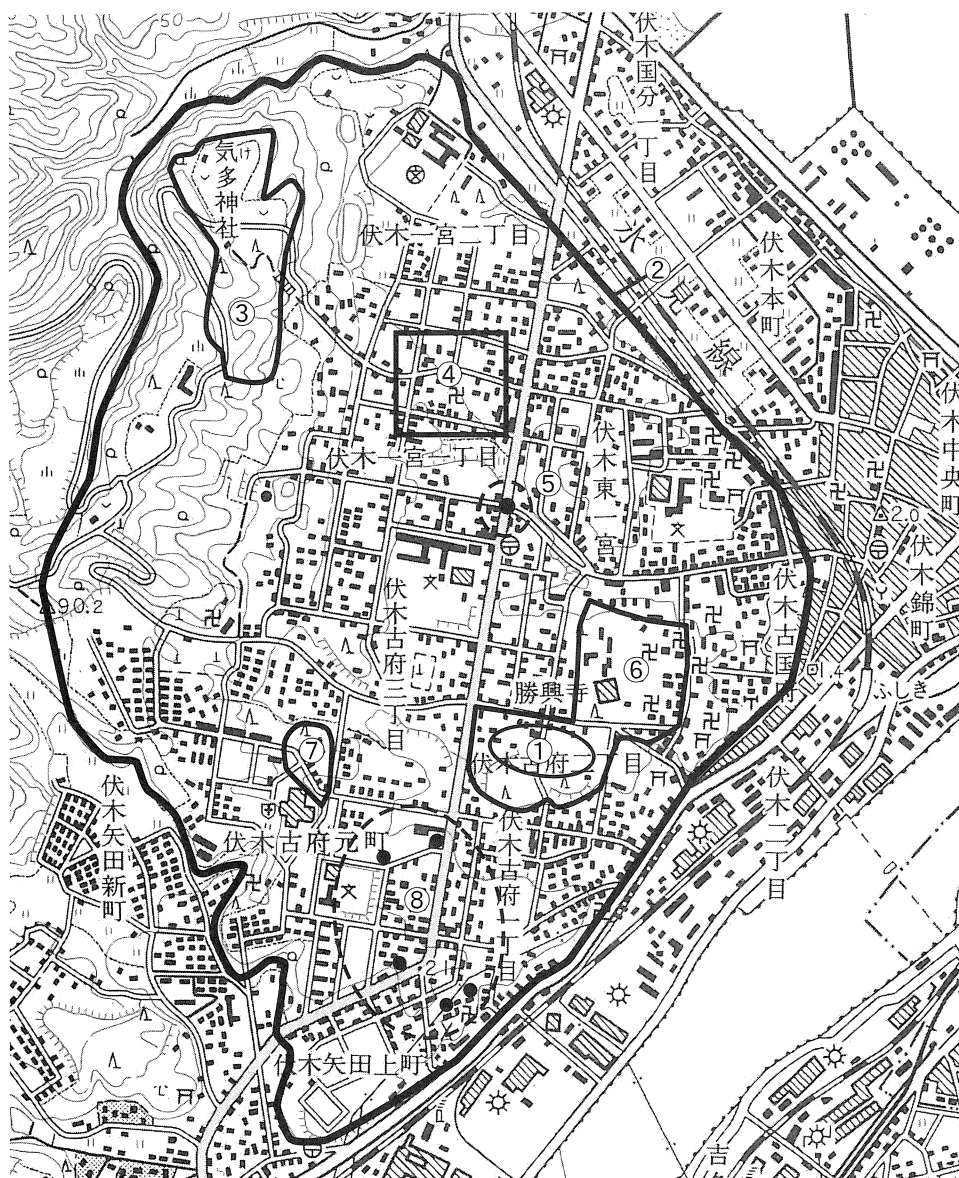
天正12年（1584）、佐々成政は隣国加賀・能登の前田利家と一進一退の戦闘を展開するが、その中で国内の浄土真宗寺院を味方につけるため、旧国府跡一帯を勝興寺に寄進している。すなわち、同年12月の神保氏張の勝興寺制札に「一、府之分一円令寄進候事」とある。これによって、越中国府の中心部の土地が、勝興寺のものとなったのである。その後は、越中国内の触頭的な働きを担い、江戸時代、近現代を経て現在に至っている。勝興寺に残る建造物の中でも「本堂」、「大広間及び式台」は令和4年12月12日に国宝の指定を受けている。その他の建造物はすべて重要文化財である。

第4節 調査の方法と成果

第1項 調査の方法

令和5年度は、御亭角廃寺跡周辺の歴史地理的調査を行うため、令和4年度に作成した字境界図と『越中伏木地理志稿』の附録にある「伏木地区字別地図」を参考にしながら、都市計画図と合成し、「伏木地区字境界図」を作成した。

図面の合成は、Adobe Illustratorのソフトを利用し、PC上で行った。都市計画図と「伏木地区字別地図」を重ねる際は、縮尺が異なるため、字境は地形で区切るようにした。合成後に現地確認を行い調整した。現地確認の際には、「古国府」の場所は、令和4年度に作成した地籍復原図と字境図を参考にした。この図面は、今後も適宜修正を加える予定である。



- ①御亭角廃寺跡 ②越中国府関連遺跡 ③寺山遺跡 ④越中国分寺跡
⑤大塚遺跡 ⑥古国府城跡 ⑦白山経塚 ⑧古府古墳群

第33図 周辺の遺跡位置図 (1/15,000)

第2項 調査の成果

第34図は、『越中伏木地理志稿』の附録である「伏木地区字別地図」である。伏木台地とその周辺の字名が表示されている。丘陵部は色がついており、台地と谷には無色であり、溜池は3つ表示されている。字境についてはおおそで予測できるが、現地確認は難しい。

第35図は、都市計画図と「伏木地区字別地図」、地籍復原図の合成である。伏木台地とその周辺の字名の分布が、都市計画図によって明確になった。「御亭角」の範囲は、勝興寺の南西に位置しているところと、現在土塁が残存している部分も含まれる。都市計画図との合成により、山と谷の地形に沿って字名が設定されていることが判明した。

現在、伏木台地一帯は、「越中国府関連遺跡」と呼称しているが、過去には、地名や字名によって、いくつかの遺跡が存在していた。第35図をもとに、過去の遺跡の範囲を再確認する必要もあるだろう。今後は、字名と地形の関係を考えるため、等高線を表示した地形図の作成を行うとともに、発掘調査の成果や表採資料との比較検討を行う予定である。

参考文献

- | | | |
|----------------------------|------|----------------------------------|
| 石川県金沢城調査研究所 | 2019 | 『金沢城跡一本丸附段・北ノ丸ー』 |
| 石川県立埋蔵文化財センター | 1986 | 『漆町遺跡Ⅰ』 |
| 江口桂編 | 2014 | 『古代官衙』考古学調査ハンドブック11
ニューサイエンス社 |
| 太田久夫 | 2009 | 「中越鉄道」『千保川の記憶』136頁 桂書房 |
| 金田章裕 | 1998 | 『古代荘園図と景観』 東京大学出版会 |
| 金田章裕 | 2017 | 『古地図からみた古代日本』 吉川弘文館 |
| 国宝指定記念「瑞龍寺展」実行委員会 | 1998 | 『国宝指定記念 瑞龍寺展』 |
| 正和勝之助 | 1991 | 『越中伏木地理志稿』 桂書房 |
| 瑞龍寺国宝指定記念出版刊行委員会 | 1999 | 『国宝 高岡山瑞龍寺』 |
| 瑞龍寺国宝保存会、高岡市立博物館、
富山新聞社 | 1981 | 『高岡山 瑞龍寺』 瑞龍寺刊行会 |
| 高岡市 | 1959 | 『高岡市史 上巻』 |
| 高岡市教育委員会 | 1986 | 『富山県高岡市美野下遺跡調査概報』 |
| 高岡市教育委員会 | 1987 | 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅰ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1987 | 『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1988 | 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅱ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1989 | 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅲ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1991 | 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅱ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1994 | 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅵ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1996 | 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅶ』 |
| 高岡市教育委員会 | 1997 | 『市内遺跡調査概報Ⅵ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2000 | 『市内遺跡調査概報Ⅹ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2001 | 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2002 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅡ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2004 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅣ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2005 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅤ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2008 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅦ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2008 | 『高岡市 前田利長墓所調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2009 | 『市内遺跡調査概要ⅩⅧ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2010 | 『越中国府関連遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2010 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅨ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2012 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅩⅠ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2013 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅩⅡ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2014 | 『市内遺跡調査概報ⅩⅩⅢ』 |
| 高岡市教育委員会 | 2014 | 『中木津遺跡・西木津遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2015 | 『市内遺跡調査概報24』 |
| 高岡市教育委員会 | 2017 | 『市内遺跡調査概報26』 |
| 高岡市教育委員会 | 2018 | 『井口本江遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2019 | 『市内遺跡調査概報28』 |
| 高岡市教育委員会 | 2020 | 『井口本江遺跡調査報告』 |

高岡市教育委員会	2020	『市内遺跡調査概報29』
高岡市教育委員会	2021	『市内遺跡調査概報30』
高岡市教育委員会	2022	『市内遺跡調査概報31』
高岡市教育委員会	2023	『市内遺跡調査概報32』
高岡市教育委員会	2024	『市内遺跡調査概報33』
高岡市制100年記念誌編集委員会	1991	『たかおか－歴史との出会い－』 高岡市
富山新聞社	2001	『ふるさと富山歴史館』
富山県教育委員会	1967	『越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書』
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	1996	『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』
萩原大輔	2018	「高岡山瑞龍寺伽藍の創建－加賀前田家の藩主菩提寺 造営一」『富山史壇』第186号 越中史壇会
白鳳会	2009	『富山県高岡市の文化財』
福井知樹	2019	「大坂瓦の一研究」『紀要』第32号 公益財団法人滋賀県 文化財保護協会
福岡町教育委員会	1995	『石名田木舟遺跡発掘調査報告書』
福岡町教育委員会	2002	『木舟城跡発掘調査報告』
古岡 英明	1951	「越中国分寺創設に関する一考察」『研友会誌』 富山大学科学教育研究室
古岡 英明	1956	『昔の伏木』 高岡市立伏木小学校
北陸古瓦研究会編	1987	『北陸の古代寺院』 桂書房



1 東木津遺跡
Y S B 地区
第1トレンチ全景（西）



2 越中国府関連遺跡
西地区
第1トレンチ全景（南）



3 石名田木舟遺跡
沖村地区
第1トレンチ全景（西）



1 越中国府関連遺跡
山森地区
第1トレンチ全景（南）



2 下老子笹川遺跡
梶沢地区
第1トレンチ全景（北）



3 井口本江遺跡
K's地区
第3トレンチ全景（西）



1 井口本江遺跡
K's地区
第4トレンチ全景（西）



2 越中国府関連遺跡
東亞合成地区
第1トレンチ全景（西）



3 越中国府関連遺跡
太田地区
第1トレンチ全景（東）



1 本領地崎遺跡
土倉地区
第1トレンチ全景（北）



2 瑞龍寺遺跡
穴井地区
第1トレンチ全景（西）



3 瑞龍寺遺跡
前花地区
第1トレンチ全景（東）



1 赤祖父羽佐間遺跡
県土木地区
第1トレンチ全景（南）



2 赤祖父羽佐間遺跡
県土木地区
第2トレンチ全景（南）



3 赤祖父羽佐間遺跡
県土木地区
第3トレンチ全景（北）



1 赤祖父羽佐間遺跡
県土木地区
第4トレンチ全景（南）



2 赤祖父羽佐間遺跡
県土木地区
第9トレンチ全景（西）



3 赤祖父羽佐間遺跡
中井地区
第1トレンチ全景（南）



1 赤祖父羽佐間遺跡
中井地区
第4トレンチ全景（南）



2 赤祖父羽佐間遺跡
宮下地区
第1トレンチ全景（南）



3 赤祖父羽佐間遺跡
宮下地区
第3トレンチ全景（南）



1 波岡西遺跡
前田地区
第1トレンチ全景（西）



2 高岡問屋センター遺跡
松村地区
第2トレンチ全景（北）



3 波岡南遺跡
松井地区
第1トレンチ全景（南）



1 波岡南遺跡
松井地区
第2トレンチ全景（西）



2 波岡南遺跡
松井地区
第3-2トレンチ全景（北）



3 波岡南遺跡
松井地区
第4トレンチ全景（北）



1 波岡南遺跡
松井地区
第5トレンチ全景（北）



2 波岡南遺跡
松井地区
第6トレンチ全景（北）



3 波岡南遺跡
松井地区
第7トレンチ全景（南）



1 波岡南遺跡
松井地区
第8トレンチ全景（北）



2 波岡南遺跡
松井地区
第9トレンチ全景（南）



3 波岡南遺跡
松井地区
第11トレンチ全景（北）



1 波岡南遺跡
松井地区
第12トレンチ全景（西）



2 波岡南遺跡
松井地区
第13トレンチ全景（西）



3 波岡南遺跡
松井地区
第14トレンチ全景（南）



1 中曽根館遺跡
石灰地区
第1トレンチ全景（南）



2 中曽根西遺跡
宮腰地区
第1トレンチ全景（北）



3 東木津遺跡
上野地区
第1トレンチ全景（南）



1 東木津遺跡
多田地区
第2トレンチ全景（北）



2 中木津遺跡
ASSOCIE地区
第1トレンチ全景（西）



3 中木津遺跡
堀井地区
第3トレンチ全景（南西）



1 中木津遺跡
中村地区
トレンチ全景（北）



2 中木津遺跡
フォレストリーフ地区
第2トレンチ全景（北）



3 中木津遺跡
フォレストリーフ地区
第4トレンチ全景（南）



1 井口本江遺跡
大塚地区
第2トレンチ全景（西）



2 中保B遺跡
佐久間地区
第1トレンチ全景（東）



3 中保B遺跡
岡本地区
第1トレンチ全景（東）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしょうさがいほうさんじゅうよん							
書名	市内遺跡調査概報 34							
副書名	令和5年度 赤祖父羽佐間遺跡の発掘調査報告他							
巻次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第85冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
発掘担当者	杉山大晋 田上和彦							
報告書編集者	杉山大晋 田上和彦							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 TEL 0766-20-1463							
発行年月日	西暦 2025年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	対象面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あかそふはさまいせき 赤祖父羽佐間遺跡	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 あかそふ 赤祖父	016202	202142	36° 44' 1"	137° 1' 26"	231121 } 231220	6,605㎡	河川改修 宅地造成
その他の遺跡 各調査区	とやまけんたかおかし 富山県高岡市	016202				230510 } 240325		個人専用 住宅建設等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
赤祖父羽佐間遺跡	集落	古墳 } 中世	土坑 溝 6基 16条		弥生土器、古代須恵 器、赤彩土師器、中 世珠洲、中世土師器、 近世陶磁器、石器(縄 文、打斧・石皿)			

高岡市埋蔵文化財調査概報第85冊

市内遺跡調査概報 34

編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号
TEL 0766-20-1463

2025年3月26日

印刷所 小間印刷株式会社

〒933-0927 富山県高岡市利屋町3
TEL 0766-21-0411